

第1回目の「四国へんろ」

[松陰・六部・童財善子] もどき

～スルーハイク・ドキュメンタリー～

(大 沼 かおる 香)

「四国108か寺霊場順礼 歩きへんろ:通し、順打ち」

かんぽ 貫(完)歩記録

2015 (平成 27) 年^{自宅発}3月30日(月)~^{自宅着}5月15日(金)

		2015 (平成 27) 年 / 66 歳	
前行程	自宅発	3月30日(月)	
	高野山に挨拶	〃	
	移動日	3月31日(火)	door-to-door 47日間
本番行程	現地 108か寺参拝	4月1日(水)~5月13日(水)	
後行程	高野山に報告	5月14日(木)	
	自宅着	5月15日(金)	
備考	意を決して初めての四国スルーハイクへんろ、初回ながら欲張って本札88か寺と別格20か寺の計108か寺を通し・順打ちで参拝した。88番から1番に大坂越で戻った。		

^{だいこう}大香ブランド^{ろうこん}老魂サブタイトルは、
「四国108霊場一筆書き & 霊土採取 大作戦」

(※1)「108」は、四国霊場の本札八十八か寺 + 別格二十か寺の合計108 (88+20) か寺の札所(お寺)を指します。

(※2)一般的な霊場寺院を歩いて参詣すること・人を「遍路」と漢字表記し、私に係る事柄を「へんろ」とひらがな表記します。

.....

この間における様々な出来事は山ほどありますが、本書は要点を記述したものです。本書は、実地踏査中の歩いている時に浮かんで来た諸々の雑念を少し整理して自分の中のもう一人の自分(影)に対する報告書、自家撞着問答集です、遊び心をランダムに並べて書いたものです。あの世に持って行く自分史の一端です。

.....

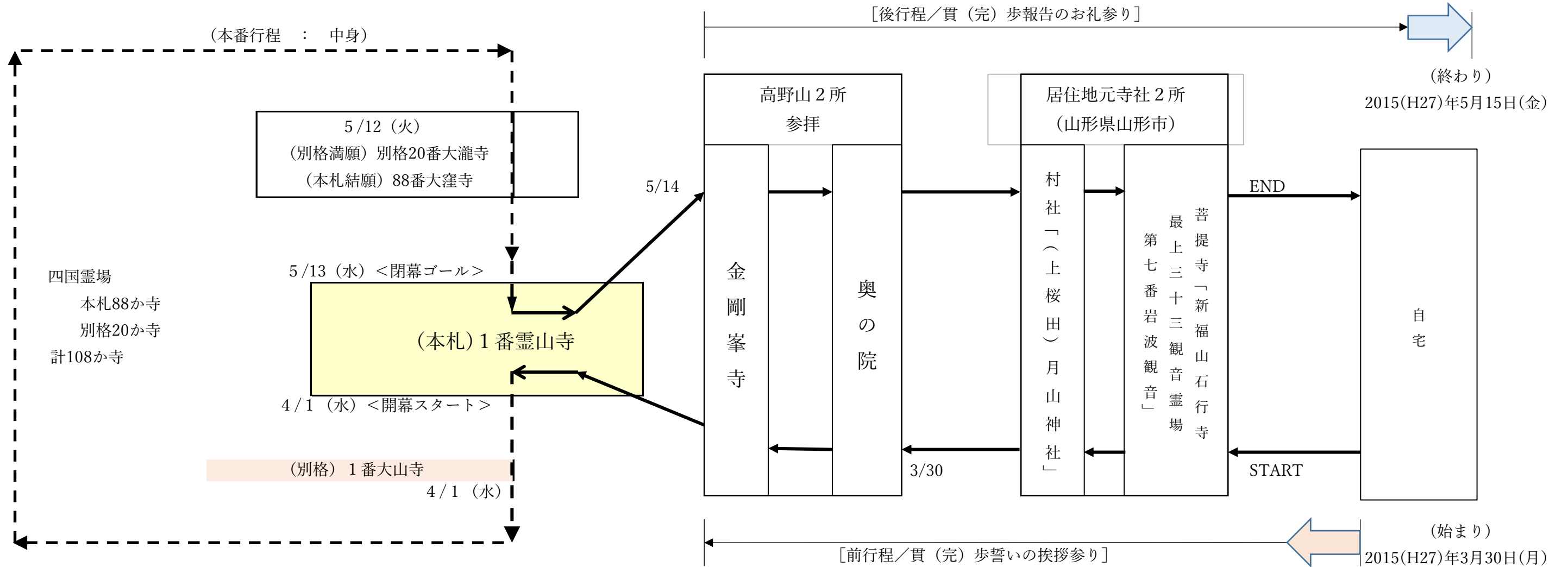
なお、誤字脱字や日本語文法上の間違いがあるはずですが、本書は世に問うものではないので、考え方や過ちを指摘されても、批評・批判されても浅学菲才の私にとって、如何ともし難く詮無いことです、性格(性質)の投影故にこれを以って私の限界です。

可笑^{おか}しな処に気付いた場合は、読み手のお方が、その聡明な頭脳を以って、自由に解釈して貰えばいいし、想像力と創造力を逞しく発揮し、ご自分の世界へ反映して貰えばそれで結構でございます。

.....

四国遍路については、数多くの紀行文や案内書や學術書が販売されており、浅薄な私の及ぶ処ではありません、よって、本書は私の体験を通したことに絞って、概要を記述しています。

2015(H27)年【 第1回目 四国へんろ（霊場参拝順礼）】の全体構図



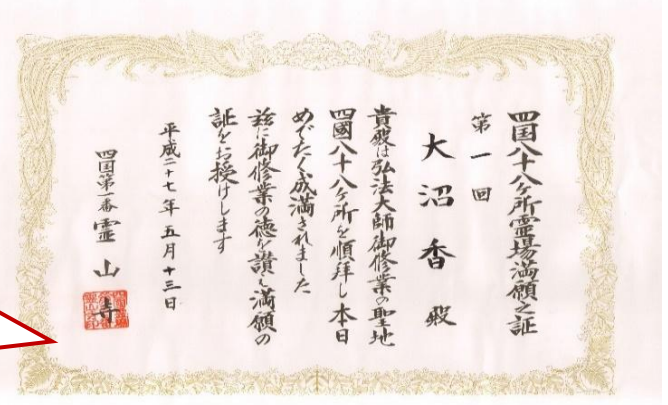
項目		実践結果（内容）	
こ だ わ り （ 目 標 ）	特別企画	別格20か寺へんろ	・四国へんろの基本形は88か寺ではあるが、第1回目の特別企画として別格20か寺を加え、計108か寺を完（貫）歩した。
		四国四県のランドマークに立ち寄る	・県庁と県庁所在地市役所と同地のJR（中央）駅に立ち寄った。計12か所（4県×3か所）となった。
	①神仏に仁義を切る	・四国に出立する前と帰宅後は、菩提寺の石行寺に参拝・佐藤住職さんと、村社月山神社に参拝・瀧本宮司さんとそれぞれ懇談した。前後延べ4個所となった。 ・四国に入る直前と結願後に、高野山の金峯山寺と奥の院に、あいさつの参拝とお礼の参拝を行った。前後延べ4か寺となった。	
	②唯一の神社に参拝	・計108か寺以外の唯一の神社を参拝することとし、「金刀比羅宮」を選択し参拝した。	
	③全て歩き切る	・四国に入り歩き初めてからは、電車、バス、タクシー、レンタカー、ロープウェイ、お接待送迎等の動力交通手段を一切使わなかった。（4/1～5/13） ・へんろ道（札所参拝を含む）を外れた食事や宿への移動を含めて動力手段は一切使わなかった。	
	④歩行軌跡を一筆書きする	・本札88か寺に別格20か寺を差し込んで、計108か寺について、順番・順次のおりに参拝した。 ・札所間の歩き軌跡を交叉させず、GPS軌跡は一筆書き（四国怪魚の姿形表出）となった。	
	⑤歩行軌跡を閉曲する	・本札88番大窪寺結願で終わらず、引き続きスタート基点の本札1番霊山寺まで歩いて戻った。結果して歩行軌跡は「阿・吽」の円環形態を成した。	
	⑥全札所から採土する	・自宅の土、吾が地元は月山神社・石行寺の土、高野山（金剛峯寺+奥の院）の土と、108か寺の本堂前の土を採土・確保した。 ・霊土としては、延べ116か所（地元寺社2×2、高野山2×2、本場108）、吾が自宅を含めて計117か所の土を一つのペットボトルに混合し自宅の神棚に祀った。	
	⑦真水を背負う	・菩提寺は石行寺の神滝（龍山川）の真水を力水とし、自宅出立から帰宅まで背負い切った。	
	⑧アオキ葉を背負う	・サルタヒコノオオカミが宿る十字対生のアオキ葉を、自宅出立から帰宅まで背負い切った。	
⑨荷物を背負い切る	・背負っている荷物の一部といえども、お店や宿やお接待に対し、預けることは一切しなかった。本堂・大師堂での参拝中も背負い、終わってから降ろした。		
⑩アルコール類を摂取しない	・アルコール類は嗜好の一つではあるが、自宅を出立したその時から自宅に戻っての夕食まで一滴も口にできなかった。		

2015(H27)年【 第1回目 四国へんろ 】の概要ルート図／歩いたGPS軌跡



- 凡例
- ・ (赤い) 旗マーク
本札88か寺の位置
 - ・ (緑の) 四角柘マーク
別格20か寺の位置
 - ・ (黄色の) 二重丸マーク
前山お遍路交流サロン
 - ・ (赤色の) 二重丸マーク
密集雑木の遍路道廃道の藪漕ぎ
 - ・ 家マーク； 宿泊場所

◎左図はGPS機の足跡記録です。携行したガーミン社製オレゴン650「GPS機-地図搭載、GPS軌跡(緯度・経度)&タイムの電子スタンプ機能」の歩行軌跡の全記録です。細部を確認すると、全てを歩いたという事と、立ち寄り場所が判明し、全道貫(完)歩の客観的な科学的・デジタル証拠を保持している事になっています。軌跡をピックアップすると、一筆書きの交差しない閉曲線を描き、「四国怪魚の姿形」(私の呼称)となります。



四国八十八ヶ所遍路大使任命書
Shikoku 88 Temples Pilgrimage Henro Ambassador
(第 2763 号)
山形県 大沼香 殿

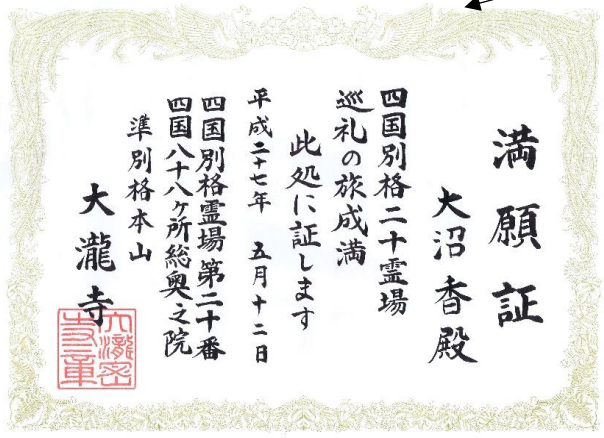
貴方は四国八十八ヶ所歩き遍路約 1,200km を完歩され、四国の自然、文化、人との触れ合いを体験されたので、これを証すると共に、四国遍路文化を多くの人に広める遍路大使に任命致します。

This is to certify that you have successfully completed the 1200km of Shikoku 88 Temples Pilgrimage on foot and that you are named as a Henro Ambassador. We wish that the interaction with the people, the culture and the nature of Shikoku enriches your life and that you will spread the Henro culture worldwide.

平成 27 年 5 月 12 日
Date: / /

NPO 法人 NPO 88 回 組織コーディネーター 第 2670 期 2014-2015 年度 オナー
理事長 亀岡 孝平 (Seihei Kameoka)
NPO 法人 遍路でおもてなしの会
理事長 木村 大三郎 (Daizaburo Kimura)

佐々木 善敬 (Yoshihide Sasaki)
代表 大山 茂樹 (Shigeaki Oyama)



【 第1回目 四国へんろ {108か寺霊場参拝、通し・順打ち(右回り周回)} 】の移動行程集計表

< 携行したガーミン社の「オレゴン650機(地図搭載、GPS軌跡&タイムの電子スタンプ機能)」と「カシミール3D」により集計 >

累積 日数	行動月日		歩行経路(道程) 通過札所名・始終点	実歩行 距離 km	歩行時間			平均時速 km/h	天候	備考	宿泊先	
	月 日	曜 日			開始 時:分	終了 時:分	時間:分				所在地	名称
前行程 2015 (H27)	3月29日	(日)	菩提寺「新福山石行寺・最上三十三観音第7番札所岩波観音」参拝 村社「上桜田月山神社」参拝	---					晴・曇	地元の寺社に挨拶参り		
	3月30日	(月)	自宅→(新幹線、電車利用)→高野山に参拝;奥の院→同金剛峯寺→(宿)	---					快晴	高野山に挨拶参り	和歌山県高野山	無量光院(宿坊)
	3月31日	(火)	(宿)→(バス、電車利用)→1番札所霊山寺近くの民宿に移動	---					快晴		徳島県鳴門市板東	民宿 阿波
本番行程												
1日目	4月1日	(水)	1 霊山寺→2 極楽寺→3 金泉寺→4 大日寺→5 地藏寺→別1 大山寺→(宿)	23.0	7:50	16:00	8:10	2.8	曇・小雨	現地スタート初日	徳島県上坂町	寿食堂
2日目	4月2日	(木)	→6 安楽寺→7 十楽寺→8 熊谷寺→9 法輪寺→10切幡寺→11藤井寺→(宿)	27.0	6:50	15:20	8:30	3.2	曇・晴		徳島県鴨島町	BH アクセス鴨島
3日目	4月3日	(金)	→(柳水庵)→12焼山寺→(鏡大師)→(宿)	33.0	5:35	16:35	11:00	3.0	曇・雨		徳島県神山町	ペンション やすらぎ
4日目	4月4日	(土)	→別2 童学寺→13大日寺→14常楽寺→15国分寺→16観音寺→ 17井戸寺→[JR徳島駅]→(宿)	26.0	6:35	15:40	9:05	2.9	曇・雨・		徳島県徳島市	アパホテル徳島駅前
5日目	4月5日	(日)	→徳島市役所・県庁]→18恩山寺→19立江寺→(宿)	32.0	6:30	16:15	9:45	3.3	雨		徳島県勝浦町	民宿 金子や
6日目	4月6日	(月)	→別3 慈眼寺→20鶴林寺→21太龍寺→(宿)	35.0	5:30	16:10	10:40	3.3	曇・小雨		徳島県阿南市	民宿 坂口屋
7日目	4月7日	(火)	→(大根峠)→22平等寺→(山座峠)→23薬王寺→(宿)	32.0	6:40	15:50	9:10	3.5	雨		徳島県美波町	旅館 きよ美
8日目	4月8日	(水)	→別4 鯖大師本坊→(宿)	30.5	6:45	15:35	8:50	3.5	雨・曇		徳島県海陽町	民宿 かいふ
9日目	4月9日	(木)	→(札所なし)→(宿)	34.5	6:40	15:05	8:25	4.1	雨		高知県室戸市	民宿 徳増
10日目	4月10日	(金)	→24最御崎寺→25津照寺→26金剛頂寺→(宿)	30.5	6:00	15:05	9:05	3.4	雨		高知県室戸市	蔵空間 茶館
11日目	4月11日	(土)	→27神峯寺→(宿)	28.0	7:10	14:50	7:40	3.7	曇		高知県安田町	浜吉屋旅館
12日目	4月12日	(日)	→(札所なし)→(宿)	33.0	6:30	18:10	11:40	2.8	曇		高知県香南市	高知黒潮ホテル
13日目	4月13日	(月)	→28大日寺→29国分寺→30善楽寺→[JR高知駅・高知県庁・市役所]→(宿)	31.5	6:20	16:30	10:10	3.1	雨・曇		高知県高知市	ホテルベストプライス高知
14日目	4月14日	(火)	→31竹林寺→32禅師峰寺→33雪蹊寺→34種間寺→35清滝寺→(宿)	38.0	5:30	15:50	10:20	3.7	曇・雨		高知県土佐市	ビジネスイン土佐
15日目	4月15日	(水)	→36青龍寺→(横浪黒潮ライン)→別5 大善寺→(宿)	36.5	5:50	15:35	9:45	3.7	晴		高知県須崎市	BH 丸富
16日目	4月16日	(木)	→(焼坂峠)→(そえみみず道)→37岩本寺→(宿)	31.5	6:00	14:25	8:25	3.7	曇・晴		高知県四万十町	岩本寺(宿坊)
17日目	4月17日	(金)	→(片坂峠)→(札所なし)→(宿)	36.5	6:00	15:15	9:15	3.9	快晴		高知県黒潮町	ネスト・ウエストガーデン土佐
18日目	4月18日	(土)	→(伊豆田道)→(札所なし)→(宿)	38.0	5:30	15:55	10:25	3.6	晴・曇		高知県土佐清水市	民宿 紆海
19日目	4月19日	(日)	→38金剛福寺→(宿)	37.0	5:55	15:50	9:55	3.7	曇・小雨		高知県土佐清水市	ホテル オレンジ
20日目	4月20日	(月)	→39延光寺→(宿)	38.5	5:45	14:35	8:50	4.4	雨・曇		高知県宿毛市	民宿 嶋屋
21日目	4月21日	(火)	→(松尾峠)→40観自在寺→(宿)	36.0	5:50	15:10	9:20	3.9	晴・曇		愛媛県愛南町	民宿 ビーチ
(中間日)										(中間日)		
22日目	4月22日	(水)	→(柏坂)→(松尾道)→別6 龍光院→41龍光寺→(宿)	44.0	5:35	16:35	11:00	4.0	晴		愛媛県宇和島市	民宿 みま
23日目	4月23日	(木)	→42仏木寺→(齒長峠)→43明石寺→(鳥坂峠)→(宿)	37.0	5:40	16:05	10:25	3.6	晴		愛媛県大洲市	松楽旅館
24日目	4月24日	(金)	→(地藏越)→別7 出石寺→別8 十夜ヶ橋→(宿)	30.0	5:50	15:55	10:05	3.0	快晴		愛媛県大洲市	ふるさと旅館
25日目	4月25日	(土)	→(札所なし)→(宿)	33.0	6:25	14:35	8:10	4.0	晴		愛媛県砥部町	旅館 橘屋
26日目	4月26日	(日)	→(鶴田峠)→44大寶寺→(峠御堂道)→(八丁坂)→45岩屋寺→(宿)	33.0	5:50	15:35	9:45	3.4	快晴		愛媛県久万高原町	宿 八丁坂
27日目	4月27日	(月)	→(千本峠)→(三坂道)→46浄瑠璃寺→47八坂寺→別9 文殊院→ 48西林寺→49浄土寺→(宿)	29.0	5:55	15:45	9:50	2.9	快晴		愛媛県松山市	たかのこのホテル
28日目	4月28日	(火)	→50繁多寺→51石手寺→[愛媛県庁・松山市役所・JR松山駅]→ 52太山寺→53円明寺→(宿)	34.5	6:15	15:55	9:40	3.6	晴		愛媛県松山市	太田屋旅館
29日目	4月29日	(水)	→54延命寺→55南光坊→56泰山寺→(宿)	34.0	6:00	15:00	9:00	3.8	曇・晴		愛媛県今治市	ホテル福亭
30日目	4月30日	(木)	→57栄福寺→58仙遊寺→59国分寺→別10 西山興隆寺→別11 生木地藏→(宿)	40.0	5:25	16:00	10:35	3.8	晴・曇		愛媛県西条市	湯の里 しこくや

【 第 1 回目 四国へんろ {108か寺霊場参拝、通し・順打ち (右回り周回) } 】の移動行程集計表

No.2

累積 日数	行動月日		歩行経路 (道程) 通過札所名・始終点	実歩行 距離 km	歩行時間			平均時速 km/h	天候	備 考	宿泊先	
	月 日	曜 日			開始 時:分	終了 時:分	時間:分				所在地	名称
3 1 日目	5月1日	(金)	→60横峰寺→(白滝奥之院)→61香園寺→62宝寿寺→63吉祥寺→(宿)	24.0	5:40	15:35	9:55	2.4	快晴		愛媛県西条市	民宿 鈴
3 2 日目	5月2日	(土)	→64前神寺→別12延命寺→(宿)	35.5	5:20	16:00	10:40	3.3	快晴		愛媛県四国中央市	蔦廼家
3 3 日目	5月3日	(日)	→65三角寺→(地藏峠)→別13仙龍寺→(堀切峠)→別14椿堂→(宿)	35.0	5:35	16:05	10:30	3.3	晴・小雨		愛媛県四国中央市	椿堂集会所
3 4 日目	5月4日	(月)	→(曼陀峠)→66雲辺寺→(宿)	27.5	6:35	15:05	8:30	3.2	曇・晴		徳島県三好市	丸福旅館
3 5 日目	5月5日	(火)	→別15箸蔵寺→(井ノ鼻峠)→(若狭峰)→(中蓮寺峰)→ 別16萩原寺→67大興寺→(宿)	42.0	5:20	16:20	11:00	3.8	快晴・曇		香川県三豊市	民宿 大平
3 6 日目	5月6日	(水)	→68神恵院→69観音寺→70本山寺→別17神野寺→(宿)	41.0	5:20	15:40	10:20	4.0	晴		香川県琴平町	つるや旅館
3 7 日目	5月7日	(木)	→(金刀比羅宮)→(大麻山)→(火上山)→71弥谷寺→別18海岸寺→(宿) 72曼陀羅寺→73出釈迦寺→74甲山寺→75善通寺→(宿)	33.0	5:45	16:50	11:05	3.0	小雨・晴	金刀比羅宮参拝 (御朱印入手)	香川県善通寺市	善通寺グランドホテル
3 8 日目	5月8日	(金)	→76金倉寺→77道隆寺→78郷照寺→79天皇寺→80國分寺→(宿)	28.5	6:05	15:30	9:25	3.0	快晴		香川県高松市	えびすや旅館
3 9 日目	5月9日	(土)	→81白峯寺→82根香寺→別19香西寺→83一宮寺→(宿)	27.0	6:35	15:20	8:45	3.1	小雨・曇		香川県高松市	温泉 きらら
4 0 日目	5月10日	(日)	→ [香川県庁・高松市役所・J R高松駅] →84屋島寺→85八栗寺→ 86志度寺→(宿)	33.0	6:20	15:50	9:30	3.5	快晴		香川県さぬき市	旅館 栄荘
4 1 日目	5月11日	(月)	→87長尾寺→(津柳)→(宿)	28.0	5:55	14:25	8:30	3.3	晴		香川県高松市	さぬき温泉
4 2 日目	5月12日	(火)	→別20大瀧寺→88大窪寺→(女体山)→(前山おへんろ交流サロン)→(宿)	48.0	5:20	17:35	12:15	3.9	曇・雨	別格満願証・本札結願証の受領	香川県さぬき市	八十窪
4 3 日目	5月13日	(水)	→(中尾峠)→(引田)→(大阪越)→(卯辰越)→I 霊山寺→(宿)	41.0	6:00	16:10	10:10	4.0	晴	1 番霊山寺に閉幕のお礼参り、ゴール	徳島県鳴門市	大鳥居苑
後工程 2015 (H27)	5月14日	(木)	(宿)→(電車利用)→高野山に参拝;金剛峯寺→同奥の院 →(バス、電車利用)→(新大阪)→(宿)	---					曇・雨	高野山にお礼参り	大阪市淀川区	ホテルマックス
	5月15日	(金)	→(新幹線利用)→帰宅→村社「上桜田月山神社」参拝 菩提寺「新福山石行寺・最上三十三観音第7番札所岩波観音」参拝	---					晴	帰宅;地元の社寺にお礼参り	山形県山形市	[自宅]

・108か寺以外の唯一の神社を参拝することとし、「金刀比羅宮」を選択し参拝した。

(註1) 四国へんろの標準的な距離は1,200km~1,400kmと言われているが、私は別格20所を入れ、かつ参拝順序を札所番号の順番通り(連番)とする歩き方により、沿面距離1,446km(約1,450km)となった。

へんろ実歩行合計(沿面距離)	1,446	km	平均時速	9:42	3.5	km/h
1日平均	33.6	〃	時間・分			
1日当りの最長(5/12)	48.0	km	(5/12)	12:15	時間・分	
1日当りの最短(4/1)	23.0	〃	(4/11)	7:40	〃	

(註2) 宿泊場所への移動やへんろ道沿いのコンビニ・スーパー・食堂、名所旧跡への立寄りを含むが、離れた施設への立寄りは省いている。札所境内でのジグザク歩数を加味すればさらに加算される。

第1回目 四国へんろのこと(概要)

標記、初めての四国へんろを正味2015(平成27)年4月1日(水)本札1番霊山寺から歩き始め～5月12(火)別格20番大瀧寺で(注1)満願を果たし、同日引き続き本札88番大窪寺で(注2)結願し、ここに計画どおりの合計108か寺を参拝した。翌5月13日(水)1番霊山寺に戻り、このスタートからゴールまでの正味42連泊43日間、へんろ道ルート沿い実歩行距離1,592km(約1,600km)を連続の連日連泊歩行で貫(完)歩しました。1日平均の実歩行距離は37.0km、同時間10.2時間、同平均時速3.8kmとなりました。もちろん、この期間中には、理由の如何を問わず休息日はまったく入っていません。全札所の概要は図-1のとおりで、足跡を残した通過県は徳島県、高知県、愛媛県、香川県の四国4県でした。



図-1

四国遍路を語る時に出て来る専門的なローカル用語について主なものを記述しておきます。

(注1)別格20所霊場においては、全部を参拝し終わったことを「満願」という。

(注2)本札88所霊場においては、全部を参拝し終わったことを「結願」という。
本札88番大窪寺での発行証を「結願」証、本札1番霊山寺での発行証を「満願之証」という。

[札所];遍路が巡礼する弘法大師ゆかりのお寺をいう。

[打つ];札所を参拝することをいう。

[納経];札所で読経する(御経を納める)ことと、その参拝の証(御朱印)を頂戴する行為をいう。

[順打ち];札所を右廻り(スタートはどこからでもok)の順に、時計廻りに参拝することをいう。

[逆打ち];「順打ち」とは反対廻りに左廻りに、反時計廻りに参拝することをいう。

[通し打ち];全ての札所を一度(一回)で参拝することをいう。

[区切り打ち];札所を区別して、何回かに分けて参拝することをいう。

なお、後記の写真は断りのない限り私が撮影したものです。

1. 108 か寺霊場を設定した背景

昔からの庶民の憧れの霊場巡りと言えば、「四国遍路(四国 88 か寺霊場巡礼)」である。本霊場は弘法大師空海(お大師様)が修行道場として開創したお寺(1200 年の歴史)のことである。

88 の数の由来や意味について諸説はあるが、一般的には次の三つである。

✓一つ目は厄年説。88=42(男の厄年)+33(女の厄年)+13(子供の厄年)

✓二つ目は「米(こめ)」に係る説。「米」の字を分解すると八十八に見え、米寿(長寿祝)の由来と共通する。(八十に八を反対にして重ねる)

✓三つめは聖数説。古代、八は聖数・嘉数と云われ、記紀神話において吾が国は、八島・八十島と称されたことに繋がる。

四国遍路においては交通等の移動手段を問わず、一般的にはこの 88 か寺の霊場を巡礼する人が殆どである。お大師様に纏わる信仰や伝説に基づいて開かれた寺は、88 か寺(以下「本札 88 所」と略称する)以外にも沢山あり、別格霊場は其中でもお大師様と特にご縁が深い寺院 20 か寺が結集(昭和 42 年)した霊場である。四国霊場巡りは、願わくは、旅に先立ち高野山に参り、旅の安全を誓いお大師様との同行二人を乞い、四国 88 か寺と別格 20 か寺(以下「別格 20 所」と略称する)の合計 108 か寺(以下「108 全所」と略称する)霊場を巡礼し、結願・満願の後、再び高野山を訪れてお礼参りをし、お大師様とお別れの儀式を執り行う事が推奨されている。なぜ、108(か寺)なのか、仏陀の説く人間が持つ百八の煩惱から 108 を取り、それに霊場を重ね、そこを巡礼する事により煩惱は滅罪する、断ち切る事に繋がるとされる。私は"そうか、108 の煩惱か、少しでも自縄自縛を解き放したい"と願った。これらの事を踏まえ、私は、**初めての四国へんろではあるが、108 か寺の霊場に巡拝する事を誓い実践した。**なお、実践の中での現地遍路仲間においては、その別格霊場に参拝する人もいたが、それは有名な所のみを巡ることであり、通し打ちの中で別格 20 所の全てに挑んでいる人とは出会わなかった。

2. 「大香ブランド老魂サブタイトル」の設定

私の別称「蟻・亀・蝶の助」——最終段の『終わりに』を参照のこと——のエネルギー源となる同タイトルについては、「四国 108 霊場一筆書き・霊土採取大作戦」と設定したが、その思いは次のとおり。本札 1 番霊山寺から現地スタートし、本札 88 所に別格 20 所の霊場を差込みながら、本札・別格共に順番通りに参拝する事とした。さらには、札所間の歩き軌跡を交叉させない事も狙った。つまり、最終的には、歩いた軌跡を一筆書きの閉曲線に描きたいと決意した。

また、108 全所の本堂前から土(霊土)を採取し、ペットボトルに確保する事にした。

私が、この四国 108 か寺霊場の歩きへんろに掻き立てられた動機、ならびに本サブタイトル設定に至った事情については本書に随時記述して行く。

3. 本札 1 番霊山寺のスタート日の設定

切りが良い事、現地スタートから歩いた日数が暦の日数と引き合せて累積数が分かり易い事、年度初めに合わせる事などを勘案し、4月1日(水)とした。私が出会った人の7割程度は4月1日スタートであっ

た。なお、後で分かった事だが、プロアドベンチャーの田中陽希さんが挑戦したグレート・トラバース——2014(平成26)年NHKが企画放映した「日本百名山完全人力一筆書き踏破」への挑戦——の屋久島スタートが4月1日(火)であった。

4. へんろの行程内容

(1) 前行程

✓ 2015(平成27)年3月29日(日)

以下の儀式・儀礼を執り行い安全歩行と貫(完)歩を誓った。

a. 地元の崇敬する寺社に参拝

四国108全所にいきなり飛び込むのではなく、まずは、日頃のお世話に敬意を表して、地元居住地の菩提寺である「新福山石行寺(天台宗)・最上三十三観音霊場第七番岩波観音」、ならびに地元町内会の村社たる「(宗・法)月山神社」(無住)にも参拝した。同寺の佐藤住職と同社の瀧本宮司と懇談し、御朱印を、納経帳と白衣に貰った。後記図-9のとおり。

b. 縁起物・呪物を持参した

神仏の崇拜や対する帰依は、真相は偶像崇拜だと断定しており、普段は何かにすがって縁起を担ぐ、いわゆる験担ぎをするということは、一切やらない——六曜「先勝—友引—先負—仏滅—大安—赤口」や数字の四や九を気にしない——が、本件においては遊び心の一つとして以下の二つを携行した。

(a) 真水を背負った

水は、何と言っても、動植物の生命力維持の基礎となる栄養、血液、酸素を循環させる体液となり、命にとっては最必需の一つである。上記菩提寺の境内には図-2のとおりみたきの神滝がある、男ジェンダー(=陽)の㊦不動明王と、女ジェンダー(=陰)の㊧弁財天が安置され、清い水しぶきで濡れている。この滝の清水・真水を陰陽の対(陰=女、陽=男)にちなんで神聖な力水として100ccペットボトルに汲み入れて背負うことにした。結果して、背負い切った。



㊦
不動明王(男)



図-2



㊧
弁財天(女)

(b) 十字対生のアオキ葉を背負った

道は様々な道が交差・交錯し、人々や車や動物が行き交う。その交差点は十字路やY分字路(三叉路、丁字路)だが、デフォルメ象徴化すれば十字路である。交差点は人々が出会い、離れ別れる、会者定離・愛別

離苦、離合集散の悲喜交々の結合点である。そのような行き交う人々の守り神は、道分けの神（導きの神、道ひらきの神、むすびの神）の「※猿田彦大神」である。現地では国土地理院地形図には表記されていない道が沢山あるだろう、その分岐点で間違いの無い正しい選択の決断を促してくれるサルタヒコノオオカミの神通力を形にたく、吾が庭を見渡し見付けたのがアオキだった。図-3のとおり、葉は上から見ると綺麗な左右対称性の十字を構成している、人間もほぼ左右対称、しかし、葉も人間も上下対象では無い。アオキの雌雄の花弁も十字対生、かつ左右上下対象、つまり、点对称なのである。「似ているが違う、違うようで似ている」ここがいいのだ。このような思いをアオキ葉に仮託し、同葉をラミネートにして、結果して背負い切った。

(※) 『古事記』および『日本書紀』の天孫降臨の段に登場する。上は天界（高天原）の天津神最高神^{あまつかみ}『天照大御神』から、下は地上界（葦原中津国）を治めるように遣わされた瓊瓊杵尊^{ににぎのみこと}を、無事に道案内した地上界国津神の最高神をいう。^{くにつかみ}



図-3a

図-3a 左下は、雄株に咲く雄花で花弁が4枚と雄蕊^{しべ}が4個である。同図右下は、雌株に咲く雌花で花弁が4枚と柱頭の大きな雌蕊が1個である。花弁は4枚で共通的に同じで、蕊は4対1であるが位置が違う。特徴を有し印象に残る花である。アオキ葉は生であり、取れば水分が抜けて黒ずむことから、図-3bのとおりラミネートして背負った。

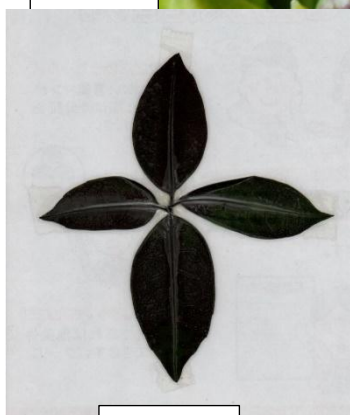


図-3b

✓ 2015 (平成 27)年 3 月 30 日 (月)

まずは高野山に行って、奥の院および金剛峰寺の順に、挨拶の参拝を行い、安全歩行と貫(完)歩を誓った。図-4 のとおり納経帳に御朱印を貰った。この日は高野山の宿坊(無量光院、ここは2回目)に泊まった。



図-4

(2) 本番(中) 行程

31 日(火)は高野山から公共交通機関利用により、1 番霊山寺近くの民宿に宿泊した。いよいよ 4 月 1 日(水)、民宿を出て、6 時 55 分本札 1 番霊山寺に入り、本番開幕のスタートを切った。本堂と大師堂の前で、一連の読経手順・読誦作法により参拝を果たした。以降、順番に札所の参拝を行い納経所において御朱印を頂戴した。同様の行動を積み上げ、結果して 108 全所の満願・結願に至った。ガーミン社 GPS 機器(オレゴン 650)を携行し、歩行の全軌跡を記録(科学的デジタル証拠を保持)出来た、これが一つの自負、その軌跡が前記のとおり。計画時の狙いのおおりに、一筆書きの(軌跡が交叉しない)閉曲線軌跡となったが、その姿・形から、「四国怪魚模様」と呼称付けした。本番行程の骨子・主要点は以下のとおり。

a. 本札 88 所に別格 20 所を加えた 108 全所の霊場に順打ちで参拝した。

b. 1 番札所霊山寺をスタート以来、宿泊所への移動やコンビニ等への必要な立ち寄りを含めて、43 (42 + 1)日間、1,592km を、理由の如何を問わず休息日(歩かない日)は入れず、一切の動力交通を使わずに連続の連日連泊の歩行で貫(完)歩した。

○電車、バス、タクシー、ケーブル等の動力(公共交通機関)は一切利用しなかった。

○荷物を宿やお店等に一度も預ける事無く、荷物(水 1L を入れて 7kg 程度)を背負ったまま札所を繋いだ。また、本堂および大師堂での参拝時もザックを背負ったまま読経のお勤めを果たした。

○「乗れ」というお接待申し出の乗用車も何度かあったが、丁寧にお断りをして、一度も利用しなかった。

○宿提供の車による送り迎えの申し出も数回あったが、丁寧にお断りをして、一度も利用しなかった。

なお、一度、種崎～長浜間は高知県営フェリー(5 分間)を利用したが、歩く事を本来として来た遍路も、昔から、川や海を渡る時は「お許しの舟」と言って乗り物を利用しても、歩きと見なして来た歴史的経緯があり、これに準じたものである。しかし、乗船中の 10 分近くはイスに座らず、荷物も降ろさず背負い立ったまま通過した。

c. 本札 88 所に別格 20 所を差込みながら、1 番霊山寺から本札・別格共に順番通りに参拝した。私が出会った殆どの方は、最も効率的な(所要時間を最短にする)参拝順序を考え、札所の順番に拘った人は見当らなかった。よくあるパターンを図-5 で説明して見る。私は言い訳を付けずに、54 番から 55 番⇒56 番⇒57 番⇒58 番へと(赤色・細い線)順序良く打った。55 番南光坊は今治市内にあり、宿が沢山ある事から、1 日の行程との関係で、54 番⇒56 番⇒57 番⇒55 番⇒58 番へと(紫色・太い線)繋ぐ人が結構いた。いわゆる「ショートカット」行動である。これは一例であるが、バス停留所・電車駅、宿の位置などとの関係で、他の札所においてもこのような巡拝ルートを取る人が殆ど同様であった。殆どの方は巡る順番は問題では無く、要は納経帳が御朱印で埋まれば良いのである。それも“有り”なのだ。そもそも、御朱印には日付は押印されないから、朱印帳にしても掛け軸にしても、出来上がった結果としては、どこの札所から始め、どのような順番で回ったかは分からないのである。しかし、私は順番に拘ったのだ。

d. 42 日目の 5 月 12 日(火)、意欲十分、体調万全、快調快調、爆心行軍の日、まずは別格 20 番大瀧寺に参拝・満願し、同日引き続いて本札 88 番大窪寺に参拝して結願した、これまでの累積全日数 42 日目で



あった。前記4ページ右下にある「四国八十八ヶ所遍路大使任命書」は、「前山お遍路交流サロン（遍路資料展示室は圧巻）」が発行したもので、歩き遍路・自転車遍路で結願した方に授与しているものである。

なお、この日の歩行距離は53km、歩行時間12時間15分となり、いずれも最長となった。

ここに表出した“42日目”の意味合いは次のとおり。「し（死）に日」である、擬死再生の修行道場——娑婆の日常生活の自分を消し去って、つまり一旦死んだつもりで修行し、浄化されて新たに生まれ変わる旅路であり、「死出の旅=再生の旅」（円環思想・輪廻転生）とも言われる歩き遍路に真に相応しい所要期間となった。入口（スタート）で「しに」ではなく、出口で「しに」が出た、復活に逆向・反抗する言葉がわざと私に表出させたもの、“満願・結願に溺れるな、まだ死に切っていない、中途半端だ、なお一層気を引き締めろ！”という神仏からの厳命であったのだ。いや、スタートは4月1日は「しいち」、「死位置」なので、これまた、「死出の旅=再生の旅」に相応しいのだ。

他方で、「42」を裏返すと「24」となり「にしき（錦）を飾る」に繋がり、これまた真にお目出度い節目になった。その裏返す意味合いは、もの・ことに陰中陽有り、陽中陰有り、陰陽は、つまり表裏は一体であるという視点からだ。

また、5月12日の数字を足し込むと「8」になる。末広がり縁起の良い「八」である。「八十八ヶ所」の「八」である。これらは意図的に日程を組んだのでは無く、**偶然の結果**であった。お大師様からの贈りものだろう。

e. 結願後の翌日、さらにスタート基点であった本札1番霊山寺へ直接至るルートを通り、同寺に戻って貫（完）歩を報告し、ご加護に感謝の真心を込めて参拝した。ここに閉幕ゴールと成った。

88番大窪寺から1番霊山寺に戻るルートは、他に県道2号線経由10番切幡寺に至り霊山寺に戻るルート（平坦）もあるが、二つの急坂峠（大坂越え・卯辰越え）があって、難儀な道ではあるものの1番に直接至るこのルートを取って選択した。後記P31「16.円環成就への拘り」に繋がる。

f. 四国四県のランドマーク的存在にある県庁と県庁所在地市役所と同地のJR（中央）駅に立ち寄った。前記所持のGPS軌跡に証拠を保持している。

g. 108全所の本堂前から、また高野山の2所（奥の院・金剛峰寺の本堂前）から、少しずつ霊土を採取し、200CCペットボトルに確保して来た、さらにはそれに地元の社寺2所（本殿・本堂前）の土も混ぜて神棚（図-6・7 / この下部は仏壇）に奉っている。

なお、高野山奥の院・弘法大師霊廟前においては、私達が立ち入る事が可能な所はコンクリートであり、土は無い事から、線香種火の灰をこっそり採取した。

h. 別格札所を入れた事から大きな標高差の山登り同然の所（別格 20 番大瀧寺は 108 札所ルートの中で最も高い 949m、本札ルートの中では 66 番雲辺寺が最高 927m）、および、金刀比羅宮から奥社・龍神社・大麻山へのルート、引き続きの火上山へのルートを歩いたが、頗る快調に身体が動いてくれた。なお、国土地理院地形図上には明確に山道が存在しているが、現地においては廃道となっており、その上に迂回路の車道は相当に長い事から、藪漕ぎを強行してルートを取った所が 2 個所に及んだ。



図-6



霊土が入った
小ボトル

真水が入った
小ボトル

図-7

i. 4月21日（火）午後から鼻水が出始めて風邪気味となり、微熱もあり23日（木）まで3日間続いた。加えて、今度は翌日の24日から25日の二日間は便秘気味で腹の調子が悪くなった。持参服用した古いセイロガンのせいなのか。5月2日（土）12時頃にラーメンを食べたが、その直後下痢を模様して、3回別々のトイレに飛び込んだ。国道沿いなのでコンビニのトイレを借りたが、そうでなければ大変な騒動になっていた。前日頂いた朝食のあの〇〇料理の食中りではないかと思っている。一時的な体調不良は日常生活においても有り得る事であり、重症でなければ、強行する、歩いている中で、気力で治して行くのが私の性分である。重症化するかどうかの機微は自身が一番分かる。

j. 前記前行程に記した地元寺社の御朱印および真水・アオキ葉、ならびに高野山の御朱印をお守りとして歩き、格別の危険な目に遭う事は無く、無事所期の目標を達成出来た。

以上を以て、ここに前記の大香ブランド老魂サブタイトル「四国 108 霊場一筆書き・霊土採取大作戦」を計画のとおり成就することになった。

（3）後行程

✓ 2015（平成 27）年 5 月 14 日（木）

本札 1 番霊山寺お礼参りの翌日から、公共交通機関利用により四国を離れて高野山に行き、前行程とは逆に、金剛峰寺（図-8 左）、ならびに奥の院（同図右）の順にお礼参りをした。安全歩行と貫（完）歩の報告をし、ご加護に感謝の参拝を行い、納経帳に御朱印を貰った。高野山は「平成 26 年開創 1200 年記念」事業を展開しており、街中に大勢の観光客が繰り出していた。御朱印を貰う時は、小雨の中でポンチョを着用したまま 40 分ほど行列に並んだ。

✓ 2015（平成 27）年 5 月 15 日（金）

帰宅した当日の午後、地元町内会の村社たる「（宗・法）月山神社」に、安全歩行と貫（完）歩の報告をし、ご加護に感謝の参拝を行った。同社の瀧本宮司を訪問・懇談し、図-9 のとおり御朱印を納経帳と白衣

に貰った。最後に、菩提寺である「新福山石行寺（天台宗）・最上三十三観音霊場第七番岩波観音」に安全歩行と貫（完）歩の報告をし、ご加護に感謝の参拝を行った。また、不動明王と弁財天が浴びている神滝にも参拝した。同寺の佐藤住職を訪問・懇談し図-9のとおり御朱印を納経帳と白衣に貰った。なお、同白衣の背中側には何も貰っていない、押印していない。



図-8



帰宅直後に地元の寺社石行寺、(上桜田)月山神社からの御朱印

出発直前に地元の寺社石行寺、(上桜田)月山神社からの御朱印

図-9

5. 初めての四国へんろを終えての感想・想い出

(1) 歩き遍路と自称する人達の話をよく聞くと、地元に戻って、他人には歩き遍路をした（全日歩いた）と、胸を張って言うようだが、実際に現地では、バス、タクシー、お接待自家用車、レンタカー、電車の動力乗り物を併用した「ミックス遍路」の様相であった、みないい加減なのだ。88札所間の全て——1番霊山寺から88番大窪寺までのルートを歩行で通し切る真の歩き遍路は極少数なのではないかと思った。

(2) 距離感が麻痺する。日常生活では数百メートル先の用事であっても、殆どの人は車を利用する、私は出来るだけ歩く事を心掛けているが、4km先の所に用事があるとなると、心を決めない限り車を利用する。ところが、歩き遍路では平均的に1日30km~40kmくらい歩く事から、10km位が一つの区切りと捉えるようになった。4~5km、つまり1時間~1時間30分の距離はまったく問題にならず、3時間位の時間・距離を一目盛りの物差しにしているような感じになった。「10km、大した事は無い！」となった。多くの歩き遍路がそう言っていた。

(3) 御朱印貰いに納経所へ行くのは、本堂および大師堂において所定の慣行に従って読経・読誦し、いわゆる参拝を終えてから行うのがマナーであると、霊場会（寺側）は啓発しているが、団体ツアーの場合は、観光業担当者が納経帳や白衣・掛け軸をどっさりと抱え込んで、バスを降りて納経所に直行する。納経所の担当者は寺の規模にも依るが、1・2名だから、御朱印作業に長時間を要する。個人の遍路は終了まで待たされる事になるが、私の場合は、寺側や団体担当者側の配慮で割込みをさせて貰った。長時間並んだのは、高野山奥の院で40分ほどであったが、四国では5分~10分位しか待たなかった。

(4) 家を離れる時に、いかなる関係の知人にも連絡せずに旅発った、また、妻には“誰にも言うな”ときつくかん口令を敷いた。外部の人との電話による会話は、宿の予約以外一切しなかった。民宿はとかく隣の部屋の話し声が聞えるが、——（安普請だから）——多くの人が知人？友人と何やら長話をやっていた。私は妻とは毎日SMS通信—「宿に着いたよ！分かった！」の1通、43日間で3回ほど極短時間（1分以内）会話したが、それ以外は誰とも電話では話さなかった。なぜなのか。私の歩きへんろの原点とは、自らを省みて、自らと対話する、自らを見つめ直す機会・環境であり、娑婆の日常生活を断ち切って、へんろに集中し

たい思いが強く、掛かって来た電話には出ないと決めていた。掛けて来た人から「大沼はマナーがない」と言われても仕方がない、そう言われれば、「こちらから電話をくれとは依頼していないのだ、あなたが勝手に掛ける気分になっただけなのだ！」と。

(5) 歩き遍路の殆ど(100%に近い)は一人旅である。まったくの別人同志が話のはずみで、共同歩調を約束し、数日間は行動したものの、結局はばらばらになったという話を2組の人から聞いた、急ごしらえて意気投合した群れは、持続する事はあり得ないという正真正銘の事象である。夫婦でスタートを切ったものの途中で別々の行動に切り替えた人にも出会った。憲法には書かれていないが、四国遍路は一人で行うものだ。

(6) 14日目の4月14日(火)、31番竹林寺から32番へ向かう遍路道で、私の脇に軽自動車に乗った中年の女性が停車して、「歩き遍路をどう思う？ なぜなの？ 歩いて意味ないよ！」と日蓮正宗のパンフレットを差し出して、四国遍路を宗教的側面から批判的、かつ一方的に語り掛けて来た。精神的に先を急いでいた事もあり、「あなたとは関係ない事だ」と切り捨てて歩きに集中した。私は、宗教的意義を持ち出して歩き遍路を行っているのでは無い。ただ、1200年の歴史のある遍路道を歩きたかっただけである。なぜ、このような態度で接したのかというと、事前に管卓二著書「四国遍路道ひとり旅(論創社)」に掲載の次のような内容を読んでいたのである。「・・・だが一方では、まことに大迷惑な乱入者もいる。三十五番清滝寺に向かって田んぼ道を歩いていると、自転車に乗って追いかけてきた男性に声をかけられ、茶封筒を渡された。宿に着いて、中の書面を読んで驚いた。慇懃な態度からは想像もつかぬ激烈な文字が、五枚の用紙にぎっしり書き込まれ、最後に署名があった。内容は省略するが、要は、念仏・真言・禅などの諸宗は邪教であるから、一日も早く日蓮正宗に帰依すべしという話だ。「真言宗の信仰は、それなりの御利益らしきものはあるかも知れませんが、邪宗教の悪因縁の因果は、今後の生活或は臨終の時に必ず現れます。『仏成している。地獄に堕ちている』は臨終の時の相で明らかであります。ですから真言宗の信仰を捨てられて日蓮正宗に御帰依なされますように念じ、これにて失礼致します。 お遍路行者各位」地獄堕ちなど真っ平だが、このような脅迫めいた文言を突き付けられては、真言宗の信徒でない私とて不愉快になる。日蓮宗のガチガチ信者の眼には、白衣・菅笠姿の遍路人はすべて邪教の盲信者と映り一斉攻撃をかけたくなるのか。それにしても実情をもっと勉強し、冷静になって布教活動しなければ、単なる自己満足に終わるだけだろう。敵を作るばかりが本望でもあるまい。仏教以外でも、これほど狂信的な人物はめったにいない。・・・」 管さんの見識にまったく同感で、日蓮宗・日蓮正宗の信者は、逆にあなた方こそ、人道を外れていると批判された場合「ごもっとも、そのとおり、改宗する」となるだろうか、ならないだろう、ますます過激な言葉を並べて反撃してくるだろう、だから私はその女性を相手にしなかったのである。真言宗を盲信して遍路をする人などはこの世に存在しない、遍路文化は多くの寛容力のある人達の献身的な取り組みで、1200年の歴史を重ねて、培って来た深い奥行きがある。日蓮正宗よ、あなた方の誹謗中傷で簡単に壊れるような遍路文化ではない、あなた方こそ邪教だ！あなた方には宗教云々という資格無しと言いたくなる、四国遍路には関係しないで、あなた方の城の中で、檻の中で好きなように、他人に干渉しないで暮らして貰えばそれで結構なのだ。

(7) 3月30日(月)から5月14日(木)までの46日間、酒を一滴も飲まなかった。宿では飲めないと言っておいた。日常生活においては、夕食時缶ビール350cc1・2本+α程度を飲んではいしたが、この期間には修行と心得てアルコールは禁酒した。念ずれば・決意すれば出来るものである。同宿した多くの遍路は、意気投合して、それぞれのお酒で盛り上がり賑やかになるが、私は酒を飲まないものの、積極的にその輪に入り、意見交換した。

(8) 55番南光坊の納経所の方から図-10のとおり「念ずれば花ひらく」の激励メッセージを頂戴した。スタートから29日目の4月29日(水)、参拝を終え、昼の12時45分過ぎに納経所に伺った。「私は読経を終えお参りして来たので、お願いします。」と述べたら「近頃、そう(お参りして来た)と言って納

経する人は少なくなったなあ」と言いながら、目の前で書かれて下さった。108 全所を参拝したが、納経所のお方（住職さん？）から直筆のメッセージを頂戴したのは、南光坊さんただ一つだけであった。こんなにも力強いメッセージは何よりのお守りであり、私の活力・動力源となった。



図-10

(9) 物事に一長一短があるもの。36 日目 5 月 6 日（水）夕方、金刀比羅宮の門前町のつるや旅館に入った。10 数年前にもツアー観光旅行でこの地に来ている。その頃は商店街に流れていたという「金毘羅船々」の歌は、今は流れておらず少し寂しくなったという話を聞いた。その歌詞の前半部分は次のとおりである。

金毘羅船々 追風に帆かけて シュラシュシュ まわれば四国は讃州 那珂の郡 象頭山金毘羅大権現 一度まわれば・・・

この歌詞の中で、今の宮司が着任した途端、今の金刀比羅宮（神社）－明治維新の神仏分離・廃仏毀釈が実施される以前は真言宗の象頭山松尾寺金光院であり、神仏習合で象頭山金毘羅大権現と呼ばれた祭神は大物主命、（相殿）崇徳天皇であり、大権現より格が上だ、したがって、大権現の言葉が入った歌を門前町に流すのは失礼だ、排除しろ」という命令を下し音楽配信を取り止めたとの事だそうだ。門前町の人達は残念がっていた。偉そうなことを言わせて貰うと、吾が民族の大和心と神の何たるかをよく理解していない。一方で、翌日の 5 月 7 日（木）の早朝に歩き始め、金刀比羅本宮には到着したのは、6 時 10 分頃で参拝した。隣の社務所は 6 時から受け付ける

という事を事前に確認していたものの半信半疑であったが、本当に御朱印を書いてくれた。どうしてこんなに早く対応してくれるのか、と尋ねた処、「宿直しているから。わざわざ参拝にここまで来てくれる人がいれば、可能な限りお客さまの心に寄り添うのが当たり前だ」と若い神職の方がさらりとおっしゃられた。開店時刻を 10 秒たりとも融通を利かせられないどこかの店とは段違いである。

金毘羅大権現はだめと堅物な面もあるが、片や 6 時から御朱印を受け付ける柔軟対応など、物事には一長一短があるものだ、物事は多面的、と改めて気付かされた。

(10) 吾が地元にも、「象頭山」や「金毘羅山」の石碑が散在しているが、琴平山（象頭山）の山岳信仰と修験道が融合した神仏習合の神である金毘羅大権現信仰の証である。その聖地・聖域である金刀比羅宮から奥社・龍神社・大麻山へのルートを歩いて来た。今回の金刀比羅宮は、1 回目四国へんろの中で唯一の神社参拝となった。全国各地に広まった同権現信仰の一角に立ち入ることが出来て大変嬉しかった。

(11) 人間の素地が現れる、旅先では、日常生活のその儘の姿。人間の素地が 100% 出る事に気付いた。色々な場面で、大勢の歩き遍路と出会ったが、宿での過ごし方、全般の行動様式、マナーなどの言動がその人のその儘が表出する事に気付いた。部屋の跡片付け、洗面所やトイレの始末を見るにつけ酷い人もいた。平均的に 5 kg～10 kg の荷物を背負い、一日 30km～40km、10 時間前後歩き続ける事は日常の場面とは異なる、宿に着けばへトへトに疲れ切っている、ある面苦難の連続の日々である。そのような中では人間性を飾れない、粉飾は直ぐに剥がれて人の素地・生地が表れる。一期一会で全力を以て対応するという人間の側面を見ると、全力はすなわちその儘・有りの儘という事になり、当然の様相であろう。

(12) 前記 4 ページ右下の「四国八十八ヶ所遍路大使任命書」についての補足を行う。「前山おへんろ交流サロン」が発行したもので、結願証も大事であるが、歩き遍路にとっては、この任命書の受領（無料）はそれに劣らないほど重要なものと受け止められているようだ。なぜならば、建前は、全札所を参拝し結願した者だけ、歩き遍路&自転車遍路だけに授与するものになっているからである。本来は結願証（筒入り 2,500 円）の優位性は高いのだが。

87 番、同交流サロン、88 番（結願寺）との位置関係は図-11・12 のとおりである。本来ならば、88 番大窪寺を参拝し結願してから同サロンに行くべきであるが、同サロンは 87 番と 88 番の間にある事から一



図-11

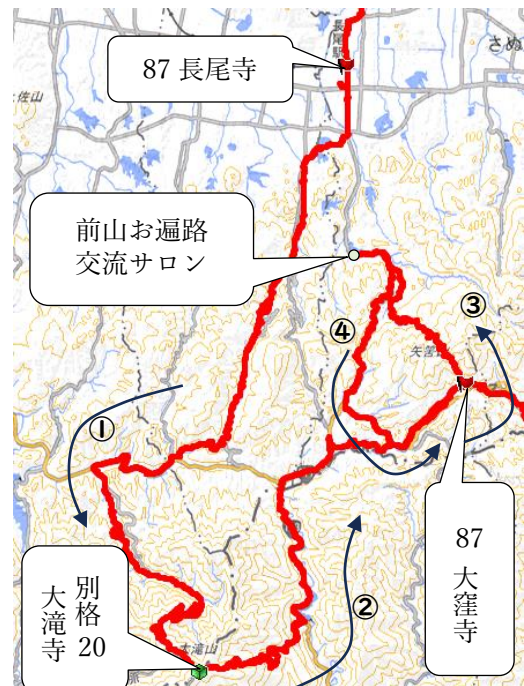


図-12

一般的には、殆どの（100%に近い）遍路は、同 11 図のとおり 87 番の次に同サロンに立ち寄って、結願する前に、同任命書受領に係る申請書に所要事項を書き込み、後日、結願を電話報告すると同任命書が送付されてくる仕組みとなっている。もう一つ、同サロンの HP を見ると「歩き遍路・自転車遍路で結願した方」に授与するとあるが、この任命書の申請はあくまでも自己申告である、「私は全区間を歩いたよ」と言って申請すれば OK なのだ、先方（サロン側）は、一々その証拠を克明に聞き取る、あるいは証拠の提示を求める事は無いのだ。良く言えば性善説、悪く言えば「でたらめ」である。したがって、その任命書を持っているからと言って、本当の処「全区間を歩いた」というのは信じ難い事となる。しかし、「ええじゃないか？」で発行・受領しているのだらうと思った。さして爪を立てる事では無いが。

私の軌跡は同図 12 のとおり（①—②—③—④）であり、自分の良心に率直に従い、別格 20 番大瀧寺を満願後、88 番大窪寺に参拝し、結願証を受領してから、大雨の中ではあったが、女体山を越えて下る山道③（標高差 600m 強）を歩いて同サロンに行き、満願証および結願証を見せ、納経帳を見せ、GPS 機器携行による完全徒歩、貫(完)歩の科学的デジタル証拠の保持を説明し、前記のと通りの公共交通機関を利用しなかった事情を説明し同任命書を発行して貰い受領した。そして、大雨の中、旧遍路道ルートを歩いて、88 番の所に戻って、その近くの民宿「八十窪」に投宿した。私は常套手段・常識的な手順を踏んで同任命書を入手した事になる。他人に誇るものではないが、二人の私対話の結果（性格）がこうなのだ。

(13) 四国は地元の人達の観光 PR・誘客戦略の熱心さには畏れ入る、参った！人集めのために人間の心情心理を突いた上手い戦略が浸透していた。次のような方便で、それも熱心に言われた。観光誘客作戦の神髄を見た感じがした。従来型とおりの人間心理に基づかない上から目線の掛け声や紙切れパンフレットでは人は集まらない。四国のやり方は頭！（知恵）を使っているのだ。観光業に携わる人達への大なるヒントである。順打ちは基本的な回り方である。しかし、この 1 回だけでは四国遍路に伴う本当のご利益は得られないのだ。ならば、はてどうするか。

- ¹まずは、88 札所だけではなく、煩惱を断ち切る 108 か寺を巡るとご利益が倍化・倍価する。⇒ 2 百 km は長くなり、所要期間は 10 日以上が延びることになりお金も掛かる。（投下される）
- ²逆打ち（反時計回り）を推奨する。お大師様は順打ちで修行されているので、逆打ちは大師さまに会えるチャンスが非常に高まる。⇒是非とも会いたいとなってまた行きたくなる。
- ³道標は、順打ち（時計回り）の人に視認出来るように貼付・設置している事から、逆打ちは遍路道ル

ートの取り方が難しくなり、迷ったりもする、逆打ちは道の傾斜が地形的に3倍も険しいと言われている中で、困難なものに挑戦するほどに功德が大きくなる。⇒難儀なほど時間を要する（滞在時間が長くなる）、ご利益・功德が大きくなるほど又行きたくなる。

○⁴ 「石の上にも三年」と言われる、遍路に足を入れたからには最低3回は必要だ、3回来れば所願成就間違いなし。⇒また行きたくなる。

○⁵ 自分のご利益追及だけではだめだ、1回目は自分のため、2回目の逆打ちもお大師様と会ったとは言え、まさしく自分ため。次に親のためとして3回来なければならない。健康な親であっても遍路が出来ないというのであれば代参の意味で来れば良い。亡くなったのであれば、供養のために、あの世から連れ出し背負って遍路に来なければならない。⇒また行きたくなる。

○⁶ 22日目の4月22日（水）、別格6番龍光院の納経所の女性が「**札所番号と寺の名前を一致させて、回って来た処の全部を言えるか？**」と話されたので「殆ど覚えていない」と言ったら、「**頭に入るまで何回でも遍路に来てください！**」とおっしゃられた、**参った！！**⇒私は何回行けば一致させる事が出来るのだろうか。また行きたくなる。

○⁷ 88番大窪寺で結願した後は、1番霊山寺まで戻ってお礼参りするるのがマナーだ。⇒これで1日は余分に伸びてお金も掛かる。

○⁸ 四国遍路に係るのであれば、スタート前に高野山に挨拶参りを行い、結願（ゴール）後はまた高野山にお礼参りするのマナーだ。⇒前後通算2～3日間は余分に伸びてお金も掛かる。

○⁹ 108全所の他にも「奥の院」「四国三十六不動尊霊場」「新四国曼荼羅霊場（神仏合体）」がある。⇒これも体験したくなる。

○¹⁰ いづれにしても、1回だけでは、中途半端、本当の功德は得られない、「何事も3回」最低3回は来てね。そのような取り組みをすると、供養も功德もご利益が何倍にもなる、是非来て欲しい。⇒あの手この手で、神仏にすがりたくなる人間の心情を察した上手な誘客作戦である。

(14) 私が嵌まったこと。37日目5月7日（木）別格18番海岸寺を参拝した時、住職から「ここには、本尊のご朱印の他に**弘法大師空海の誕生印もある、他には無い！**」とおっしゃられたのでそれも貰った、300円のプラス出費である。自宅に帰って、何気なしに本やインターネットを見ていたら、お大師様の生誕の場所については、江戸時代に本札75番善通寺と争った、いわば本家争いをし、海岸寺は大師因縁の霊跡、誕生地は善通寺にする事で和解が成立したとの事が後で分かった。しかし現地では、私は住職の奨めに乗ってしまったのだ。神仏対応は偶像崇拜だと断定しているこの私が騙されたのだ。大和民族には往古からの歴史に鑑みて神仏の怨霊信仰がどこかに沁みており、僧職や神職から怪しげなことを話されると、胡散臭いと思いつつも、ついつい相手の言うとおりに嵌まり易いものである。これに私がひっかかったのだ。悔しい、しかし、“300円、結局承諾したのは自己責任”と言い聞かせている。これに繋がる思い出は、特殊詐欺被害のことである。“私は絶対に騙されない”と言う立派な大人がゾクゾクと騙されるのだ。騙す側の悪さは10%、騙される側は残り90%の責任を負うものだと思っている、自戒！自戒！自戒！

(15) 遍路道沿いには、古い石仏や遍路墓（昔は、旅の苦難のために、遍路の途中で命を落とす者もあり、屍を地元の人達が丁寧に葬ったと云う）や、石材の古い道しるべ（道標）が点在しており、人々の信仰心の篤さや地元の人達の慈悲の心に、ただただ頭を垂れるのみであった。

ここで、「四国遍路の民衆史（山本和加子著/新人物往来社）」を参考にこの遍路墓の過去について触れておく。

・・・遍路は身体にとって過酷な行動になり、慢性的な栄養失調や体力の減退により、リウマチ、中風、脚気、疝気、赤痢・マラリア等の伝染病などで行き倒れとなる遍路が大勢いた。問題なのは、出発時から様々な病気を抱えて死を覚悟で遍路に出る人達がいた。季節的に遍路の操出時期と農繁期が重なり、迷惑な事と受け止められた。地元の村人の丁重な葬りもあったが、持ち物相当の葬り方をされた。・・・

(16) 四国八十八ヶ所霊場会は、昨年平成 26 年から本年 5 月末まで開創 1200 年記念事業を展開しており、その期間に参拝した人だけが貰える特別の期間限定の御影などを頂戴する事が出来た。図-13 は本札 60 番横峯寺の事例、左端は御朱印で左上に「平成 26 年開創 1200 年記念」のスタンプが押印されており、同図中央は通常年の白黒御影（おすがたともいう）であり、右端は「平成 26 年開創 1200 年記念」の彩色（カラー）御影 200 円/枚であった。記念の年に当たったことから全体的により豪華になっている。



図-13

図-14 は別格 3 番慈眼寺のもので、御朱印の右側には同じく「平成 26 年開創千二百年記念」のスタンプが押印されており、同記念の採色御影も配布された。



図-14

(17) 「へんろみち保存協力会」の皆さんに大いなる感謝を申し上げる。一つは山道の復元と修復・保全の努力がある。二つ目は道標の整備である。電柱、ガードレール、広告塔支柱、建物などの多くの建造物に、多くの所に、順打ち方向にシール・ステッカーが貼付され、表示板が建ててあった。（後記関係資料）これらの道標のみを頼りに歩き遍路をしている人もいた。明治以降の国土開発の中で失われたものもあったとは思いますが、昔年に設置した道標も良く保存されていた。地元の人達の情熱と労苦に、賞賛とねぎらいを送りたい。一方で、まだまだ復元すべき旧遍路道が眠っていると謂われていることから、さらなる尽力を期待す

るものである。ところで、遍路山道について、行政側が通行禁止の札を掛けてはいたが、現地は、きちんと修復されて安全通行可の場所もあった。



図-15

(18) 私も被った遍路菅笠には、仏教の宇宙観を表す次の文字、4句の偈と、「同行二人」(図-15)が書かれている。「**迷故三界城、悟故十方空、本来無東西、何處南北**」読み方は、「迷うが故に三界(欲界、色界、無色界)は城なり、悟るが故に十方は空なり、本来東も西もなく、いずこにか南北あらん」である。札所間の距離が長く、1日の中で参拝する札所が無く、移動日のような時は、この19文字が浮かんで来て、人生万般、あれやこれや空想・冥想した。なかなか含蓄のある言葉である。

私の意識は、「濃淡があるものの人は色々な煩惱、欲望を持っており、それが邪魔して、本来は無限大の可能性を秘めている、それを発揮しうる人間力量を極小化、限定的にしている、自業自得の結果である、お城の中に閉じ込められているも同然となる、自由に身動きが取れない自縄自縛に嵌まっている。しかし、歩いていると、そこを破壊・脱却する力が備わって来る。方角に東西南北というが、それは人間がルールとして決めたことに過ぎない。北極点に立てば視界は360度全方位(全部南)、南極点に立てば視界は360度全方位(全部北)、本来は4方位(あるいは8方位、16方位)等のそんな区別は無いのだ。そう気付けば、真の自由を得た身となる、融通無碍、緩急自在、臨機応変の世界を獲得出来る、発想豊かな想像力・創造性が備わって来る。」と解釈している。

「同行二人」とは、歩くのは私一人であるが、精神的には一人だけでは無い、お大師様が共に一緒に着いてくれるという意味で書き付けた語とのこと。私にしては、お大師様と一緒にいる実感是一片たりとも無かった。『二人』に拘れば、“もう一人の自分”ということについては間違いなく感じた、すなわち私に『仏性と魔性』の相反する内在である。

前記遍路墓との関連であるが、途中で死んだ場合、無一文のものは土まんじゅうの上に金剛杖を墓標の代りに立てて、この菅笠は蓋の代りとして被せた、との事である。

(19) 行き交う人達との一期一会の交流が最高だった。全国各地から、そして外国からも沢山の歩き遍路が四国に集まる。それぞれの歩くペースが違うことから抜きつ抜かれつとなる。

お遍路さんをもてなす「お接待」の一環として始まった『四国八十八ヶ所遍路小屋プロジェクト』のボランティア活動により、図-16のような休憩所が要所に設置されている、90ヶ所前後あるようだ。緊急避難的な宿にもなる。この休憩所に歩き旅人が自然と集まって来る、四国霊場と遍路(巡礼)に対する思い入れは自ずと共有出来ることから直ぐさま談笑に花が咲く。ただし、トイレが併設されているのは数割の感じを持った。

また、私は、多くが遍路宿と謂われるいわゆる民宿や家族経営の小規模旅館に泊まって来たが、とても楽しい気分させて貰った。宿や前記休憩所においては、様々な他の宿の評判、もてなし、

料理、主人・女将さんの愛想、料金などのこと、遍路道状態のことなど情報交換の場となる。

さらには、遍路に対する思い入れや人生経験や思想信条、政治経済に対する所見など多様な人間模様が交



図-16

錯するとても素敵の時となる。タブーなしのブレインストーミング・フリートーキングの場となる。吾が地元の娑婆ではウジャウジャ跋扈している仕切屋や群れ・タマリに囲い込むような佞人は表れない、「対等互敬（恵）と一期一会の空間」が故にそのような根性曲がりの参入を許さないのだ。私の言う対等互敬（恵）とは、次のとおり。

✓1 文字のとおり、お互いの人間性（社会的な権利義務）は対等・互角であり、お互いのそのままの有り様を尊重・尊敬することをいう。相手の生き方にケチを付け悪評を口にしないこと。

✓2 お互いが攻守（責・受）の肝を教え学び合う同格の人間指導員足るを自覚している関係性をいう。

(20) 外国人との会話も何とか出来た。大きな体に大きな荷物を背負った外国の歩き遍路と対面する機会が何回もあったが、私は「your country?」「hello!」だけしか話せなかった。日本人のある遍路が結構会話を出来ていたので「日常的に英語を使う機会があるの?」と尋ねたら「中学・高校のレベルだ」と話された。私もそれなりに話せる様に、事前にもう少し英語を勉強して行くべきだった、と思った。ところで、後で知ったことで“どこのお国から来たの?”は“Where are you from?”だそうだ、しかし文法的にはどうなのか「your country?」でも十分に通じた。

6. 関係機関への提言

次は「『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会」および「へんろみち保存協力会」
「四国八十八ヶ所霊場会」に対して、文書により発送・提出した提言書です。

(1) 遍路道の有り様について

想像以上に、余りにも市町村県国道等の公共的な舗装道路が多く、いわゆる遍路山道が少ない事にとっても残念な気持ちになりました。多くの歩き遍路の人達との交流の中で、とにかく山道の遍路道を歩きたいという強い意見が沢山出されました。舗装道路を、荷物（平均的には7・8kg前後）を背負って長時間（平均的に10時間前後）を歩くと、日常の生活では絶対に有りえない症状が現れます。足への負担が大となって、足の裏に豆（火ぶくれ）が出来ます。

舗装道路の表面温度を研究した人の報告書を見ると、日射量に関係するが、最高で60度近くになると言うのです。その中で歩くと、靴に舗装表面の熱ならびに靴と舗装道路との摩擦熱が伝搬し、内部では足の汗が加わり高温超多湿になります。その上で、足と靴が内部で擦り合うのです。湿気でふやけた皮膚は皺が寄って、堅い皮質と内部の柔らかい肉質の境目に炎症が起こるのです。さらに、そのようになった皮膚と靴下・靴が擦れます。つまり、炎症が悪化し、火ぶくれ・血豆が出来て、破れる状態になります。この炎症には殆どの歩き遍路が悩まされます。ところが、土の山道では絶対と言っても過言ではなく発生しません。私の40年以上の登山経験を踏まえて断言出来ます。もちろん歩き遍路のある方も同様の事を言っていました。

また、歩き遍路は、昔の遍路が通った山道を歩き、悠久の歴史や往時の人々の心情と重ね、想像力を働かす処に癒しを感じるのです。

そこで、歩き遍路を遍路山道に誘導するように強い措置を取って欲しいと思っています。遍路山道は、お遍路さんから歩いて固めて貰うのが最善です。そのために、遍路山道へ山道へと誘導する案内表示をして欲しいと願っています。

十分な安全歩行が可能となった遍路山道にしか誘導出来ないというのが関係者の考え方だと思います。しかし、〇〇の恐れがあるなど言えば危険発生リスクには際限は有りません。

- ・風が吹いただけで樹木が揺れて根元の岩石が落下する、枝が落下する。
- ・小さな地震でも大きな落石あり、大きな樹木の折損・倒木があり、小規模な崖崩れがあり得る。
- ・動物の突然の襲来の恐れがある。
- ・平時の降雨でも道が岩石や流木で荒れる。

この地球上自然界には、遍路山道でなくても想像出来ない歩行障害、交通の障害となる危険リスクは無限に有ります。事故・災害・トラブルに遭遇した時、同じ場所で、命を亡くす人、間一髪助かる人、分れるのが自然界と人間との運・不運の係りです。そもそも、如何なる道路・遍路道でも途切れの無い常時監視、常時の通行管理は不可能です。

日常においても、遍路でも、通行する、歩く事自体の全てが自己責任です。そもそも人間が生きる中で遭遇する全ての事態において自己判断の積み重ねがあり、自己責任の上に生命が維持されています。危険可能性を100%排除して、完璧な安全歩行が可能になってからでないと通せないというのであれば、全ての道路が通行禁止となります。

このような極論を避けても、公共の舗装道路への誘導では遍路道の本来の魅力は損なわれてしまいます。行政や関係機関に対して、管理不十分などと難癖を付ける遍路がいたら、毅然とした態度で「自己責任」の重要性を説くべきであると思います。

出来るだけ、山道に誘導する事は、別の面のメリット・好影響があります。山道歩きは、アップダウンがあり、特別の足元への注意喚起が必要となり時間を要します。歩行スピードは落ちるので歩行時間が長くなります。その分、水・食糧の持参が必要となります。また、全体的には宿泊日数の増加に繋がります。お金が投下されるのです。宿の提供者や食品業に経済的な好環境を齎します。

歩き遍路にとっては、前記のとおり足への負担軽減となります。

遍路山道保全の面から繰り返すが、その道を歩きたいお遍路さんから歩いて固めて貰うのが最善です。降雨で荒れた状態も人が歩けば歩くほど固められて自然的に整備されます。この事は関係機関から見て、保全管理の負担軽減にも繋がります。反対に、安易に通行止めとすれば、山道故に暫時荒れてしまいます。逆に復元に相応の労力を必要となります。

このように山道に誘導する事は、多くの関係者にとってデメリット（ややリスクが増す？）よりも遥かに大きなメリットを齎すのです。

（2）宿の有り様について

民宿・旅館のご主人・女将さんと、本音で語る機会が多々ありましたが、高齢化しており、今後廃業する処が増えるだろうという声を多く聞きました。実態を見ても経営者の方で、高齢化の上に、体の自由が儘ならない方も所々の宿で見受けられました。一方、日本遺産の指定を受け、世界遺産登録を目指す中で、遍路（歩き・交通機関利用・ミックス）を求める人達の増加が予想されます。受け入れ宿の客室不足が懸念され、その反動で、当然、野宿派が増加する事が想定されます。その場合の対応が問題となります。現状でも、野宿派のトイレやゴミ処理に係るマナーが問題視されています。現状のままでの野宿派の増加はこれらに拍車をかけて悪化する懸念があります。そこでの改善策です。

- ・若い人の遍路宿経営への参入の促進策の検討
- ・古民家の宿化
- ・賃貸住宅空き家の活用

その3点は言うは易し、行うは難しであり、その他多様な対策があろうかと思いますが、新たな視点で、地域の集会所、公民館、廃校などの開放を提言したいと思います。もちろん素泊まりで良いと思います。地域の人に負担が掛かる事になる事から、毎日の開放は困難であろうから、週に数回とか、大きく地域ごとに開放期間を持ち回るとか、これも多様な運営方策があるかと思っています。もちろん、有料にすべきです。このような機会においては、宿と利用者のような直接の利害関係は薄く、地域の人達と遍路との真の相互交流が深まり、価値観の共有が育まれて、遍路のマナーアップにも繋がるのではないかと思います。

もう一つ、遍路小屋（東屋）が随所にありましたが、殆どにトイレがありませんでした。計画的なトイレ併設が既存施設の利用拡大・有効活用という点から推進して頂きたいと思っています。

（3）遍路と宿の切磋琢磨について

インターネット上や書籍などに目を通すと、遍路のマナー欠如や、宿側に対する不満などいろいろな意見があります。この度の実体験を踏まえて、率直に言えば、遍路側の問題として、トイレやふろ場などの退出時の消灯を励行しない、洗面・風呂場での水の出し放し、退出時の部屋の不始末など常識を疑うような人達を何人も垣間見ました。一方、宿側に対する注文として、客（遍路）が宿に着いた時、迎える側として、「ごくろうさまでした、お疲れ様でした、頑張ってきたなあ」などの、所謂、はっきりとしたねぎらいの言葉を発する処が少なかった、また、総じて建物の内部・部屋が汚かったという印象を持ちました。お世辞（外交辞令）でも、明るい元気な声で迎えられ、室内がきれいであると、お世話になる遍路もそれ相当に心配りが向上します。住宅設備は古くても良いのです。新旧は問わないのです。料金を払うのだからやりたい放題、宿を提供するのだから客が頭を下げろ、などと相手の非を追及した処で改善するものではありません。双方の切磋琢磨が必要であります。そのためには、宿側として地域毎に研修会などを通して、もてなしの精神を養うべきであり、遍路に対しては、インターネットやあらゆる場面でのマナー向上、モラルアップを訴求・PRしていくべきです。歩き遍路の非常識な事例を具体的に列挙して、そのような人は来なくても良いということを正々堂々の姿勢を以て示して貰いたいと思います。

四国在住者以外の実際の歩き遍路と宿・地元関係者との懇談・意見交換の場を開催する事も有りではないでしょうか。

また、一般車の運転手マナー向上の啓蒙・啓発活動を展開して頂きたい。歩道の無い路側帯の白線の外側を歩いているのにも係らず、ややスピードを落とすなどの歩行者に対する配慮がまったく無いドライバーは99.9999%いるとの印象を持ちました。

(4) さらなる向上に向けて

ユネスコの世界遺産登録に向けて、四国4県が一体となって運動を展開しているようですが、現状の儘では私は反対です。上記3点の問題提起を行ったので、是非とも是正・改善の検討素材にして頂き、真の遍路文化向上に努力して貰いたいと思います。関係者のさらなる奮起を期待します。何かの参考になれば幸いと存じます。

7. 様々な思いの多彩な遍路

亡くなった家族（親、子供、孫等）の供養、自分を含め親戚・知人・友人の病気の平癒祈願、自分の心の整理など様々な思いで遍路に来ていた人達との出会いの中から印象に残ったものを記して見ます。

(1) スタート初日4月1日（水）の宿で相部屋となった岩手県の菅野さん

白衣の背中部分に図-17のように、「親族の戒名（法名）を菩提寺住職から記して貰った、私一人だけでは無く供養のため一緒に歩いているのだ、2着持参し、日々替わるがわる着用する、別の布に書いて貰い白衣に縫い付けたもの」と、菅野さんは話された。私が次に、観音霊場巡礼や四国遍路の機会があったら、学んで是非とも真似をしたいと思った。

なお、私が着用した白衣の背面にも図-17と同様に「南無大師遍照金剛」が印字されている。

・「南無大師」とは弘法大師に帰依して一己の心身を捧げて信心し、すぎる一奉る、という意味。

・「遍照金剛」とは、太陽のように万物を遍く照らし出す慈悲の心を持ち、その心はダイヤモンドのように堅固で輝き続けるという意味、同大師への尊称である。



図-17

札所での読経の中に必ず「南無大師遍照金剛」を唱える作法となっているが、人によっては抵抗感を持つ人がいるとのこと。所詮、偶像崇拜とこき下ろしている私は、一つひとつの文字の意味合いを精査して唱えている訳ではないので何の問題も感じない。

(2) 足裏炎症でリタイヤ

歩き遍路に備えて、自宅で、荷物を背負い毎日2時間歩き、里山も登って体力を付けた、身体的に準備万端、しかし、本番の歩きでは足裏に豆が出来て歩けなくなった、一端自宅に戻って治療し、また復帰した。このような事を3人から直接聞いた。舗装道路を、荷物(平均的に7・8kg前後)を背負って長時間(平均的に10時間前後)を数十日間歩くと、日常の生活では絶対に有りえない症状が現れる、足裏の炎症である。通常生活からは殆ど100%想像出来ない事象だ。この足裏の炎症が最大の試練である。人間の想像力は至って限定的である、都合の悪い事は想像したくないという逃避壁があり、それが結果して、仇となる。自業自得の世界である。私は、4月の下旬に両足の足裏に豆炎症が出たが、軽い症状で終わった。

私は、足ケア・グッズとして次の七つ道具を最初から準備して携行して来た。

- ①針と木綿糸若干、②極小パーナー(針の消毒用)、③テーピング用テープ、④傷パン
- ⑤極小ナイフ(ハサミ)、⑥赤チン(消毒液)、⑦傷薬

豆炎症の軽減策は、基本的には通常靴のサイズよりも1.5cm~2cm位大き目の靴を選択する。直前では、靴紐は爪先側から3ホック位は穴に通さない、靴の下敷きを外す、テーピングで予防するなど。豆が出来てしまったら、針で液汁を絞り出す、その所をテーピングする、私は未経験であるが、豆の部分に針で木綿糸を通し数cm残した儘で靴下を履くと、1日もすれば内部の液汁が自然に絞り出されて乾いてしまい痛みがすっかり取れるとの事。

(3) 骨折強行の横浜の人

5月11日(月)、スタートから51日目、87番長尾寺の少し先で72歳の横浜の人と出会った。足を引きずりながら、びっこを引きながらよちよち歩きの姿であった。「3月22日(日)1番霊山寺をスタートし、1週間くらいの処で足首を挫いた、その時から骨が痛む、偶に激痛がある。」「骨折しているよ」と言ったら「病院で受診すればそうだろう、ドクターストップだろう」「中断し帰宅しようとも考えた」と言いながら、「ただ根性で歩いている、まもなく結願である、良くぞここまで来たと自分を褒めたい、充実感はあるが、二度と遍路はしたくない」などと言っていた。悲壮感の中にも爽快感を表した人であった、「十分に気を付けてね、まもなく結願、祝福するよ!」と声を掛けて別れた。

(4) 困苦を超越した方に感動

88番大窪寺の結願時、長崎から来た笹山さん(40台後半?)と久しぶりにばったり再会した。3月14日(土)1番霊山寺スタート以来ちょうど60日目、88か寺一回りは普通で45日前後、立ち寄り個所が多いことと、以下の体調不具合による、という事であった。その道中、風邪を引いて、医者に掛かりながら同じ宿で3日間滞留したり、足裏の炎症で2日間同じ宿で滞留したり、大雨の日の遍路道では腰まで水に浸かりながら命がけで川を渡渉したり、43番明石寺で団体客のために納経所で2時間待たされたり、辛い事が沢山あった事を途中で聞いていたので、この結願では、「おめでとう」と私の方から手を差し延べ、がっちり祝福の握手をした。本人はさらりとして嘆かなかった。他人事でありながら彼の奮闘と根性に感動し涙が出て来た。

(5) デジタルに強い東京の人

70歳前半で、3回目の歩き遍路という東京都内の福島さん。ガーミン社のGPSMAPシリーズのGPS機器(私のものより高価?)を持参していた。スマートフォン(iPhone)には前回の軌跡と今回の計画ルートを入力して常時携行していた。長年登山を経験し山の知識も豊富な事に加えてデジタル関係も明るい人であった。スマートフォンの事が話題になって、様々な豊富なアプリ、アフターサービスなどを勘案すると、何と言っても『アップル社』だ、と言っていた。

(6) 様々な読経の仕方

富山県の歩き遍路は、“四国遍路は真言宗が基調であるが、家の菩提寺は浄土真宗である。南無阿弥陀仏を唱えれば良いと思うが、郷に入っては郷に従えで、参拝の仕方・読経は四国遍路の慣例に従っている”と話された。一方、別のある方は本札ご本尊の前で「南無阿弥陀仏」を10回ほど唱えて終わる人もいた。これは、浄土真宗の参拝の仕方そのものであると思われた。

(7) 遍路途中で荷物を半減化

アメリカ国籍であるが、日本語が流暢で顔も日本人のような方と抜きつ、抜かれつの出会いがあった。最初に出会った時は、それ相当の荷物(12kg位)を背負っていたが、その後会ったら、小さくなってとても軽く(5・6kg?)になっていた。どうしたの?と聞いたら「納経帳と掛け軸しか入っていない、何もかも半分を処分し捨てた、人に差し挙げた、雨具はコンビニで薄いビニール製ポンチョを買った」と言っていた。上下共白衣を着用し(歩き遍路では少ない、汚れるからズボン着用しない人が殆ど、私は白衣を上着のみ)朝3時の出発もあったとの事。別のある人は、ペットボトルのラベルまで剥がしていたが、数グラムと雖も重さを感じるからとの事。殆どの人が荷物を自宅に送り返している。辰野和男氏は自らの歩き遍路を書いた「四国遍路(岩波新書)」において、1.5kgほどの荷物を東京(自宅?)に送り返し、「ひたすら、重さからの解放を願っていた」と述懐している。当の私も不要なものとして着替えなど3回送り返した。出発前は、荷物を出来るだけ軽くし、最小限にしたつもりでも、現地に来ると利用しないものが出てくるものだ。断捨離という言葉が一時流行したが、如何に不要物を抱え、心に雑事を溜め込んで右往左往、振り回される日常がある事かと気付いた。

(8) お抹茶の振る舞い

5月12日(火)結願の夜は、88番大窪寺のすぐ近くの宿「八十窪」にお世話になり、赤飯をご馳走になった。その時に、自分も結願したという愛知県の67歳の方が、泊まり客のフランス人夫婦、私、宿の女将さんにお抹茶を振る舞った、茶道具一式を持参していた、スタートから持参し、要所の宿で振る舞って来たとの事。世の中には、このように風流をたしなむ人がいる事に驚いた。

8. 自治会長の果敢な行動と連携プレーに助けられた

4月末から5月上旬までの連休中の宿の確保が最難関、とりわけ33日目の5月3日(日)については、1週間前から探し続けたが、どこも満杯で希望する宿を確保出来なく、野宿も覚悟し思案していた。近くには遍路小屋はあったが、寝袋など野宿のためのツールは何も用意していなかった。結果して自治会の椿堂集会所に宿泊させて頂いた。5月3日の当日、別格14番椿堂の参拝を目指して昇って行く途中で、川滝駐在所ならびに椿堂集会所が目に入っていた。参拝を終え、下った処で、その時にとっさに浮かんだのが、その集会所に泊めさせて頂く事であった。まずは自治会長の名前を知りたく同駐在所に行った。ところが、同駐在所の巡査は外出中であつた。そんな処に、同駐在所に向かって右側(東側)の家のご夫婦が出先から車で帰って来た。自治会長の連絡先について相談したら直ぐに「平成27年度椿堂自治会役員名簿(氏名と電話番号)」を見せてくれた。そこで、自治会長の横内さんに電話した。横内さんは、電話の中で直ぐ様に了解してくれ、直ぐ様に同集会所に来てくれ、直ぐ様に自主防災会長の篠原さんと連携を図ってくれ、本当に親身になって、迅速に対応して頂いた。篠原さんも顔を出してくれた。野宿でなく、畳の上では、過ごしやすさでは格段の違いがあり、きれいな室内で水を使わせて頂いた。ところで、同宿したもう一人の山野さん?と言う方(千葉県の30歳大)は、椿堂の処で知り合った行きずりの方、彼は野宿派であつたが、出来れば畳の方が良いという事で一緒に泊めさせて頂いた次第。本来であれば、使用料を支払うべき処であるが、お接待と称して料金は不要との事であった。連休中の日曜日なのにも係らず、3人の迅速な連携に心より感謝を申し上げたい。帰宅後、謝礼を同封しお礼状を送付した。

ところで、吾が町内会では当時、町内会役員の名簿を回覧等で周知していなかった。私は平成27・28年

度に吾が町内会の役員（副会長兼総務部長）を担ったが、椿堂自治会の取り組みを見習い、その期間中は、会長以下執行役員 6 名は氏名と電話番号、隣組長 21 人は氏名のみを一覧表にして、年度初めに持ち家約 300 世帯に回覧周知した。――

9. 「代受苦」に思う

前記「7(1)」菅野さんの心情に共通する仏教用語の「代受苦」ということに係る私の取り組みについて。

(1) 一つ目は、四国遍路で推奨されている読経の順序を参考に、光明真言の後に、亡父母・亡弟・妻の亡父母 5 人の戒名（法名）を挿入して拝んで来たが、次のとおり。なお、戒名（法名）を読誦する習慣は、吾が町内会の知人から教わったことである。

合唱礼拝―開経偈―懺悔文―三帰三竟―十善戒―発菩提心の真言―三摩耶戒真言―般若心経―各札所・各神仏のご本尊の真言―光明の真言―『亡き両親等の戒名』―仏菩薩（ここではお大師様）の御宝号“南無大師遍照金剛”―回向文=回向偈―合唱礼拝。図(表) - 18 を参照のこと。

参拝場所	参拝対象	奉納する言葉
本堂	本尊名	(※1) 本尊の真言
大師堂	大師造	(※2) 大師の宝号

図(表) - 18

戒名（法名）を読誦する供養の意味合いは、次に記述する (2) に共通する。

(2) 二つ目は、図-19 のようにダブルストックに巻き付けた袋状金剛杖カバーの事、亡父母をあの世から呼び出して、青っぽい袋には亡父から、赤っぽい袋には亡母から入って貰い、共歩きをしたのである。亡父母は大東亜戦争直後、開拓部落に身を投じ、80 年近い生涯は農業一筋であったが、貧乏で旅行などは殆ど出掛けなかった、行けなかった人であった事から、あの世からこの世に呼び出して、四国の自然と街並みを見せたく、おへんろをして貰いたく共歩きをしたものである。

10. 納経というスタンプラリー



図-19

札所の境内に入って読経・納経（御朱印を貰うことも含む）に要する時間は標準的には 30 分程度を予定せよ、となっている。私の場合は、早口で唱えても最短で 15 分、平均的には 20 分くらい掛かっていた。しかし、他所の人を見ると、簡単に唱えて、納経所に急ぐ人が半分程度はいたと思う。

①純粋な歩き派
 一般的な四国遍路は②基本、公共交通機関利用派 の三様の
 ③そのミックス派
 スタイルで取り組んでいた。

また、

①お参りする前に境内に入ると納経所に直行し御朱印を貰ってから簡単に読経する人

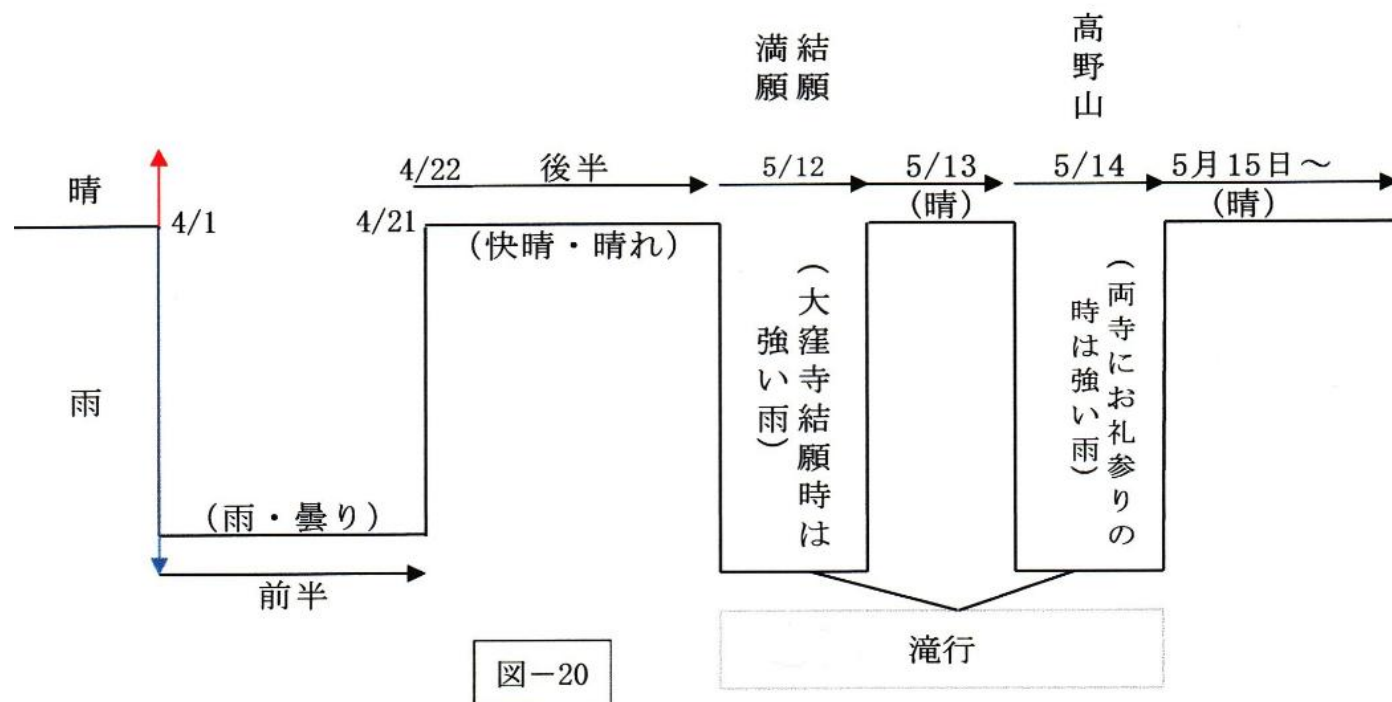
②先にお参りはするものの極簡単に読経を終わし、納経所に急ぐ人

③作法のとおり熱心に読経し、終えてから納経所に行く人
 などこれも三様であった。私は、前記とおりであるが、団体客などが入って来ると「納経所で待たされる

のか」などと納経を急ぐ心境になった。遍路行としての参拝が主眼のはずが、納経という御朱印を貰う事が目的化しスタンプラリーの様相を呈していた。寺の職員や僧侶などが、寺院名・ご本尊名・梵字などを墨守で書く訳であるが、崩し字なので何やら分からない処に神秘性・靈妙性を帯びて「ありがたい」と思うものであり、これを集めるほど功德を積んだ事になって、果報が齎されるものだと思い熱心になるもの。本来の昔のような純粋な信仰心からはかけ離れ、マーク・スタンプを整然と並べる事に快感を持つようになっている。この心情を上手く利用し観光・集客に結び付けて、経済活動・利益追求の大きな要素にしている。これは善悪で片付けられるものでは無く、理屈抜きの人間の本性というものであろう。

ところで、バスツアーの団体客は、納経帳の納経所への持ち込み、納経の手続き・料金支払いなどの面倒くさい事は一切喝采添乗員に任せ、バスを降りると本堂・大師堂に入って読経し、終わると若干の自由時間の中で写真撮影などを行い、そそくさとバスに乗り込み次の札所に移動していく。自分の納経帳に書いて貰う処を直接見る事はないのである。それでも多大のご利益を授かったような気分になるのだ。歩き遍路には、真面目に心のリフレッシュとか何とかの理由はあるにせよ、団体客の行動を見ていると、宗教性とか、リフレッシュとか、試練とはまったく縁遠い観光旅行、物見遊山の気分なのだろう。しかし、それが日常の雑事から離れて非日常性を味わう、それはそれで心の気分一新に繋がるものであろう。

11. 天気概況



天気概況の推移は図-20のとおりで、前半4月1日～4月21日は概ね雨、後半の4月22日～5月11日は概ね晴れであった。しかし、5月12日(火)の結願目前、台風6号の影響により11時21分頃に雨が降り出し、雨具を着用した。1番霊山寺スタート以来、42日目5月12日の88番大窪寺の結願時は本降りの強い雨であった。その後も夕方の民宿「八十窪」投宿まで強い雨が続いた。翌日5月13日(1番霊山寺への戻り)は晴れであったが、さらに翌日5月14日の高野山では中心部の千手院前で雨が降り出し、雨具着用での参拝となった。この5月12日ならびに5月14日の強い雨は、「死に水(末期の水)」であり、「闕伽水」(仏様に手向ける水)であり、「手水舎の浄め水」であり、身体の「清め水」であると理解した。お大師様から最終締め括りの『滝行舞台』をプレゼントされたものと理解し、とてもうれしくなった。

12. 地元の人のお接待

四国におけるお遍路文化の中に、お遍路さんに対して、無料の物品提供や無償の行為などで親切を施す

「お接待（おもてなしの一つ）」がある。これはお遍路をお大師様(空海)の化身と見なす文化の一旦である。お接待を受けたお遍路は、感謝の表意として、「納め札」（住所・氏名・願文を記載した札、横 5 cm 前後・縦 17cm 前後）をお返りする（差し上げる）のがマナーと言われている。出会った遍路の中には、このお接待を受けた事を自慢げに、誇らしげに語っている人が何人もいた。自分だけが格別の待遇を受けているが如く錯覚するというか、驕りの表れだと思う。

私は次のように対応した。4月26日（日）、本札 45 番岩屋寺に行く途中、愛媛県久万高原町下畑野川集会所で地元の人達がお接待していた処にお邪魔し、ジュース、お菓子類のお接待を受けたが、皆さんの一所懸命の心温まる誠意に触れ、私は納め札と共に 500 円を置いて来た。相手は受け取ろうとはしなかったが「私の方が、とてもうれしくなったので、今度は私からの逆接待だ、接待返しだ！」と言って、置いて別れた。他には、宿において、不要物の廃棄処理を引き受けて貰ったり、洗濯して貰ったり、無理を通して朝食の時間を繰り上げて貰ったりした宿においては、宿代金のお釣りをチップ（私の接待返し）として差し上げて来た、5 軒ほどあった。

物のやり取りを難しく解釈する「贈与・互酬論」というのがあるようだが、通常・一般的な人間相互の付き合いの中では、感謝とか、慈愛の表現として物の交換は理屈無き当たり前の行為お互い様だと私は考えている。紙切れの納め札を渡すだけ、言葉の「ありがとう」だけでは、私は納得しない。お接待を受け、お返しするに適切な物品を持ち合わせていない以上、等価ではないかもしれないが、心尽くしの応分の金銭（謝礼金）を差し出して来た。

また、私は帰宅後、お世話になった全ての宿 46 箇所、関係機関 3 箇所、その他個人 3 人に対して、合計 52 通のお礼状を発送した。これが私の逆接待（互酬）実践の一つである。中にはきちんと返礼があった。

ここで浮かんだ渋沢栄一の言葉がある。「人は受けた恩は直ぐに忘れるが、与えた恩はなかなか忘れないものだ。」この事を別の言い方で多くの人が言っているのが「与えた恩は忘れ、受けた恩は忘れるな。」煩惱まみれの私達人間にはなかなかの難題であるが、自分に無理やり言い聞かせる時がある。私の日常生活における基本的な考え方、態度、姿勢は、お互いの「対等互敬(恵)」の繋がりを強く意識している。特定の組織内では指揮命令系統に係る上下関係は統治・統率（ガバナンス）の観点からは大事である。しかし、この歳になって組織に拘束されない一般社会人としての立場、あるいは地域コミュニティの関係性においては、命令・受命の上下関係に拘束されるのは、私は絶対に拒否である。

13. 色濃く残っている神仏習合の匂い

気になっていた一つに、神仏習合の雰囲気がある寺院の存在有無であった。

まずは、図(表) -21 のとおり、本札 88 か寺について、開創者については、「四国遍路の民衆史(山本和加子著/新人物往来社)」を参考に、本札寺院の本尊について、「四国遍路（真鍋俊照著/ NHK 出版）」を参考に記述しておく。様々な人や仏さまが絡んでいる。開創は 88 所全てが弘法大師とっていたが、そうでもなかったのか。薬師如来が一番多いことから、病氣平癒に対する信仰の深さが窺われる。もちろん、本堂の他にお大師を安置する大師堂が必ず併設されている。

開創者	本堂に祀られている本尊
弘法大師空海は 65 か寺 行基は 18 か寺、役小角(役行者)は 3 か寺、空也は 1 か寺、一遍は 1 か寺	薬師如来は 23 か寺、千手観世音菩薩は 13 か寺、十一面観世音菩薩は 11 か寺、阿弥陀如来は 9 か寺、大日如来[金剛界]は 6 か寺、釈迦如来は 5 か寺、地蔵菩薩は 5 か寺、正観世音菩薩は 4 か寺、虚空蔵菩薩は 3 か寺、不動明王は 3 か寺、大通智勝如来は 1 か寺、五社大明神は 1 か寺、弥勒菩薩は 1 か寺、馬頭観世音菩薩は 1 か寺、文殊菩薩は 1 か寺、毘沙門天は 1 か寺
図(表) - 21	

神仏混交の今に残る現地を見ると、本札 41 番龍光寺は前頁図-22 のとおり、寺院では山門は仁王門が多いが、鳥居が構えていた、境内も階段を上った中央に稲荷社が配置され、寺の本堂と大師堂は両脇に配置されていた。その他に、本札 85 番八栗寺、別格 15 箸蔵寺などが神仏習合の明らかな様相を表していた。私は神仏同座の境内に入ると、どこか心に安堵を感じる。神仏相俟ってのバランスに精神的な安心感を覚える。



図-22

41 番龍光寺の正門

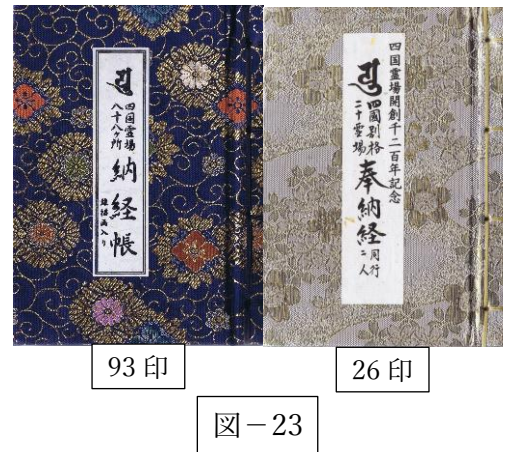
14. お大師様との対話

札所を回る足取り順に拘り続け、順番通りに札所を結んだ。前記したように、動力は一切使わず、休息日を設けず、連続の連日連泊の歩行で貫(完)歩した。私が出会った歩き遍路と称する人の殆どは、上手に公共交通機関を利用し、戻り打ちとなる札所では事前に荷物を宿などに預けたり、宿の車の送り迎えに世話になったり、お接待-四国地元の人が遍路人に提供する無償の施し-の乗用車に乗ったりしていた。私は、事前にそういうものは利用しないと決意は固めていた事から何の苦痛もなかった。他の歩き遍路との出会いの

中で、よくそのようなお接待の話題が出たが、私は「申し出はあったが、お大師様に相談した処、“お前はまだまだ修行不足、甘えるな”と一喝されたのだ。」と冗談を言って、笑い飛ばして来た。全てを歩き通したからと言って、人間性が格別変わる訳でも無く、自分の体力・精神状態に合わせて柔軟に取り組むのは当たり前のこと。私は、物事に対する姿勢を大事にしたい。計画段階、準備段階で、「こうやろう」と決意したのは自分自身である。自発的な自身の意思・意志で決めたことである。他人から強制されていやいやながら決心した訳では無い。しかし「固い決意」に固執すれば、頑迷固陋に転落する。他方、「柔軟性」に過ぎれば（100%陶醉すれば）放縦に転落する。この歩き遍路に取り組む時は、中途半端な結末にはしたく無いという強い思いがあった。世の中は万事陰陽二元の世界において、表裏、一長一短があり、煩惱塗れの人間の心中ではいつもせめぎ合いが生じている。心に弛緩も生ずるが、「所期の決意は固く、他方で思考・行動は柔軟に、硬軟両義を中和して、至高の flexibility」との基本精神を強く意識して、臨機応変に適切かつ合理的な判断を持って対処するとの考え方を実行した。その結果が、本書に記述したとおりである。

15. 霊場との契り

各霊場の本堂のご本尊、お大師堂の弘法様に参拝し、その証し・契りとしての御朱印、お札(御影)を、そして、前記の満願証、結願証、任命書を頂戴して来た。御朱印帳は図-23のとおり、本札納経帳(同図左)には93印、別格納経帳(同図右)には26印の合計119印を頂戴して来た。さらには、前記のとおり、各札所の本堂前から霊土を採取して、合計延べ117か所の土を一つのペットボトルに混合確保して来た。納経帳は自宅の仏壇に置いて、霊土は仏壇の上にある神棚に置いて、日々の勤行で見詰めている。



一般的に、なぜ、このようなものを欲しがするのか、なぜこのようなものを整然と並べる・揃えると爽快感、満足感、達成感を覚えるのか。神仏崇敬は信仰と偶像崇拜は紙一重である、神仏は非科学的であると分かっているものの、それらに本場の霊威が乗り移っているという観念が無意識の中にあるからだと思う。そこに本場のご本尊の霊魂を感じるからであろう。つまり、本場の神仏の分霊・勧請と同等の奉り方に通じ、ご利益を身近な処で、日常生活の中で貰えると思っているからであろう。しかし、私自身は、これらのものに直接的な霊威を感じて、動揺する、高揚する、脈動することは無いのだ。つまり、神社で拍手を打った、寺院で合掌したからと言って、実利を得られる訳では無く、それらの所作と科学的・合理的な論理構成(因果関係)が組み立てられない。むしろ、それらの所作は偶像崇拜の表現(証左)であると断じている方である。しかし、紙切れ(御朱印の納経帳)には何となく芸術的な側面からはおもしろいものを持ったなあとは思っている。四国へんろに行って来たという証拠を入手した、それを以て安心感を得たというところである。この御朱印をこの納経帳だけに留めて置くのか、掛け軸に表装すれば良いのか、思案のする処である。

御朱印の貰い方としては

$\left[\begin{array}{l} \text{①御朱印帳の他に} \\ \text{②掛け軸にも貰い} \\ \text{③印取白衣にも貰う} \end{array} \right.$	方法がある。
--	--------

もう少し周到に準備し、最初から掛け軸を背負い、もう一つの御朱印専用の白衣を準備すれば良かったと振り返っている。

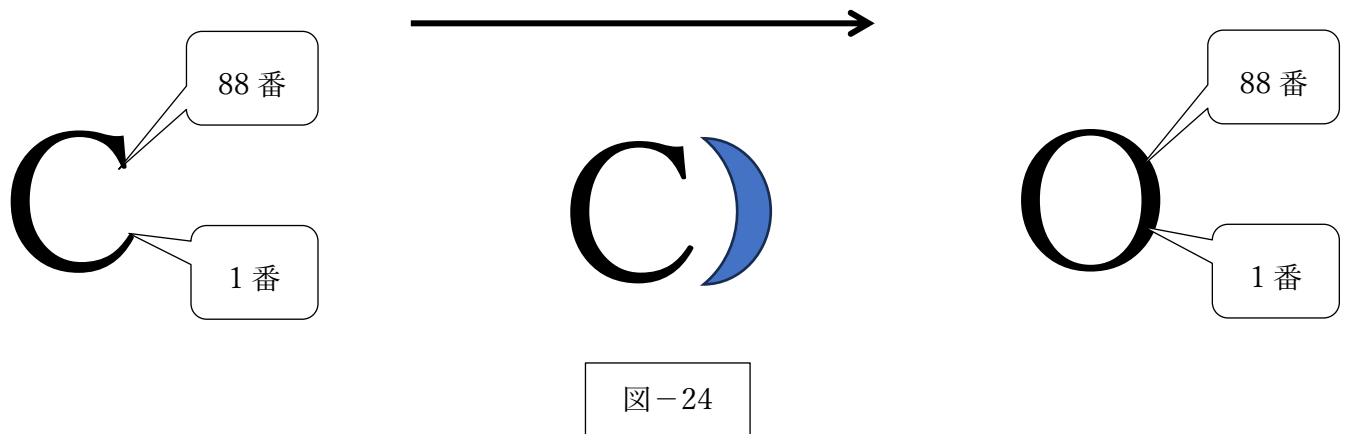
ところで、このようなご朱印帳などをどう扱うか、特に死んだ時の話であるが、棺に入れて欲しいと親族に託している人が多いと聞かすが、むしろ入れないで形見にしてくれ、思い出の品となるように残してくれという人もいるようだ。果たして、当の私は如何様にすれば良いのか、思案中である。いずれは遺族(私の子供達)が処分する事になるであろう。

16. 円環成就への拘り

殆どの方は“ 88 番大窪寺結願（究極の目標）、やったー！後は帰宅直行”である。しかし、88 番だけで終われば、締めりがなく中途半端を感じるだろうと推測は付いていた、実際の結願寺においてはそうであった。

世の中は「宇宙の始まり（存在の発生）の言葉『阿』と、「終わり（存在の終結）の言葉『吽』」の正反対二つが一对で意味を為すもの、この意義を形にすべく円環軌跡を求めて歩くこととし、1 番霊山寺まで実際に歩いた、閉じてこそその締め括りというもの、何事も起承転結のけじめ節目が必要である。88 番大窪寺（結願寺）から 1 番に戻るルートは図-24 のとおり。図-25

(<https://ohenro.jp/blog/arukihenro/>) のとおりであるが、私は、大阪越（源義経が平家打倒のために屋島に行く時に越えた峠道）の 88 番⇒2⇒讃岐相生⇒大阪越⇒3⇒1 番のルート歩いた、



17. 満願・結願直後の感想

(1) 万歳三唱するような特別の高揚感無く、「ついに歩き通したなあ」という平常・平静な心境だった。これまでも、7,000km の歴史街道歩きを行って来たが、最終目標地にゴールした時と同様に、万歳三唱して飛び上がる、あるいは嬉しさのあまり感極まって涙がぼろぼろ零れるという事はなかった。42 日間、そして 43 日間あれほど苦労して来たのになぜ感情的にならないのだろうか、自分の心に不思議さが湧いて来たのだ。何も感情を無理に抑制している訳では無いが。

(2) 歩き通した 43 日間の 108 か寺霊場や途中の情景が鮮明に思い出せない。ただ、ただ無中で歩いただけになった。歩きへんろを終えて、人生の幸せや生き甲斐は、普段の、何気ない、繰り返しの日常生活の積み上げにあると気付いた。へんろ旅をしたから人間性が格段に成長・向上し、大きく変わる、立派な人になる、などと言う事はあり得ない事に気付いた。「幸福の種は日々」で、それを見付ける・気付く・育てる力は、その全ては日常の自分の内にある事に改めて気付いた。幸せの実感、外部の如何なるものに頼ったとしても、寝だったとしても、すがったとしても成せる訳が無いのだ。ただ、歩きへんろを通して、

88番大窪寺から1番靈山寺 ルート概要

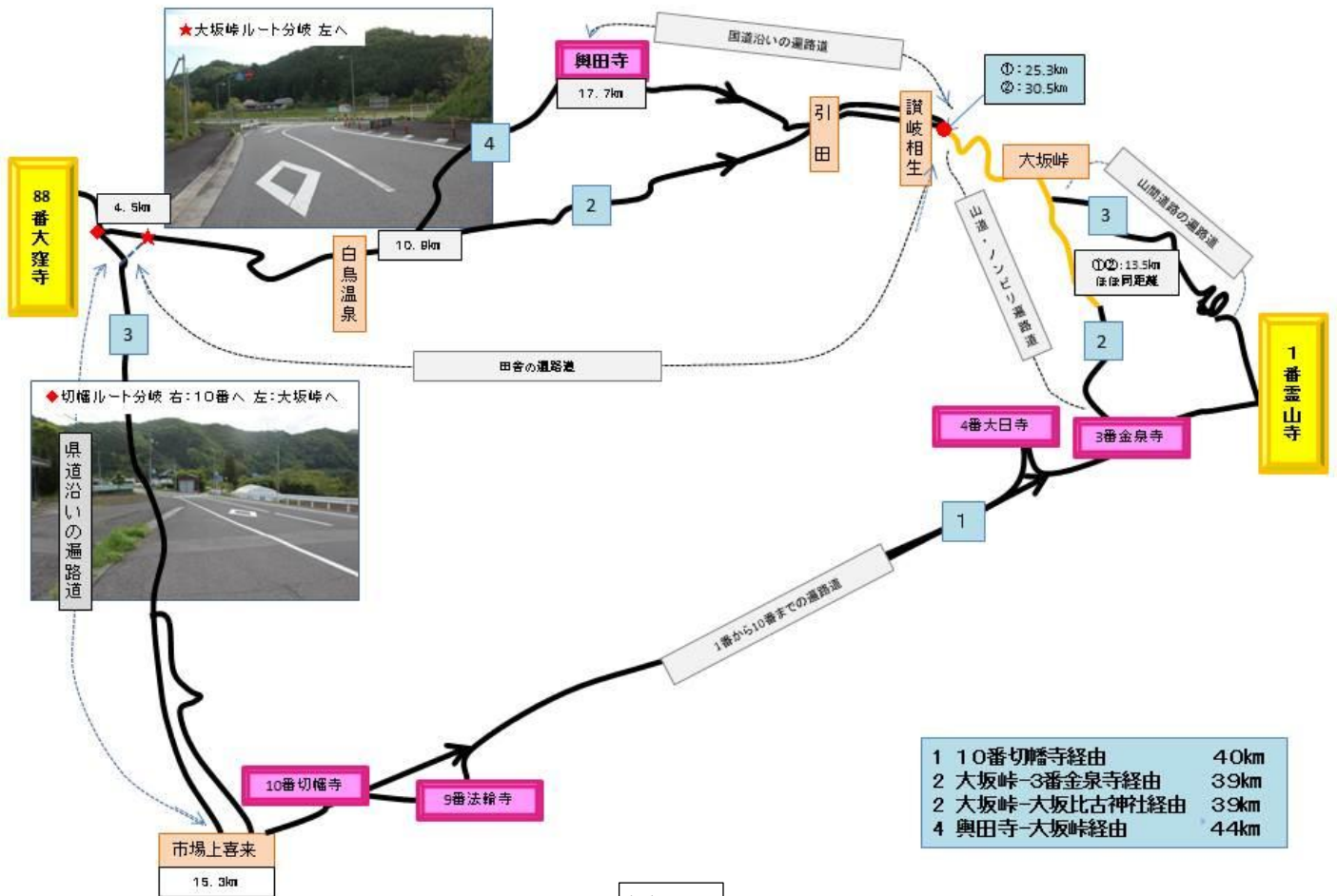


図-25

これが動機となって、少しは心が練れて、新たな気づきや何か新しい発見に繋がる刺激を貰ったという事はあるような気がしている。

結局は、へんろ道場は日常における自分の人間力の程を試す場であると気付いた。

(3) 歩きへんろは修行道、再生の旅だと立派な事を言いながらも、今の日常・日々の自分自身は煩惱・執着にがんじがらめになって抜け出せなく、もがいている姿を自覚し、歯がゆい思いがする。この歳！ いまだに尻の青みが取れない、尻の青みが再生したのだ。涙垂れ小僧の域を出ず、まだまだ修行が足りない、精進を続けなければならないと自覚する今日この頃である。

「この俺は歳を食えども鼻たれよ 生まれた頃に戻る哀れさ」

(end)

【 御 朱 印 】

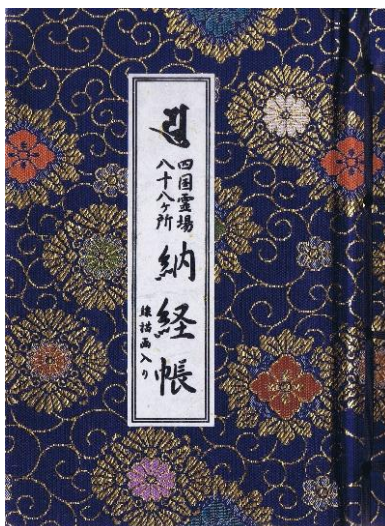
1. 本札所納経帳（御朱印請取）

本札八十八所から納経の上で頂戴した御朱印 88 印と関連して参拝した社寺分 5 印の計 93 印については次頁以降のとおりです。

御朱印一覧は、順礼した札所の順序のとおりで、下図のように配列しています。

1 番 靈 山 寺		

この 1 回目へんろで持参した本札所対応の納経帳の表紙は下図のとおりです。





〔1〕



〔2〕



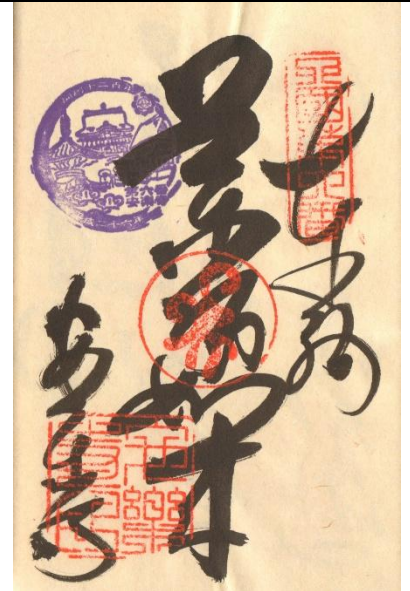
〔3〕



〔4〕



〔5〕



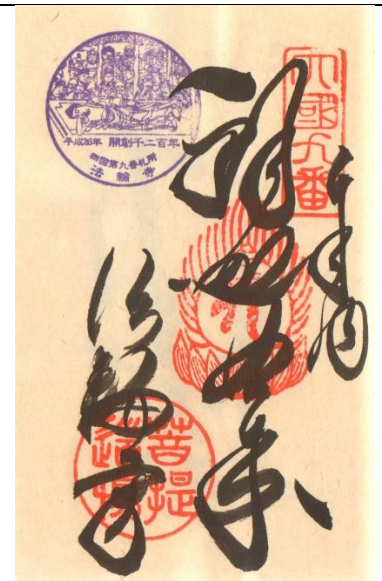
〔6〕



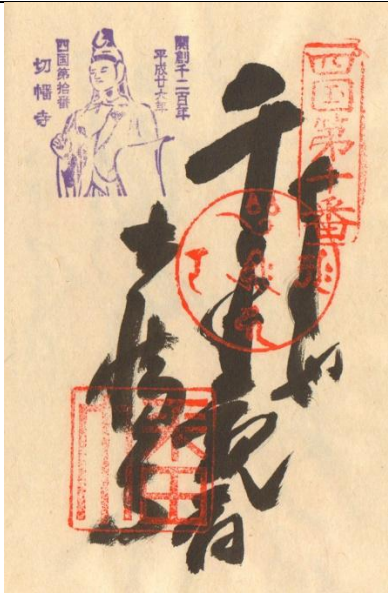
〔7〕



〔8〕



〔9〕



〔10〕



〔11〕



〔12〕



〔13〕



〔14〕



〔15〕



〔16〕



〔17〕



〔18〕



〔19〕



〔20〕



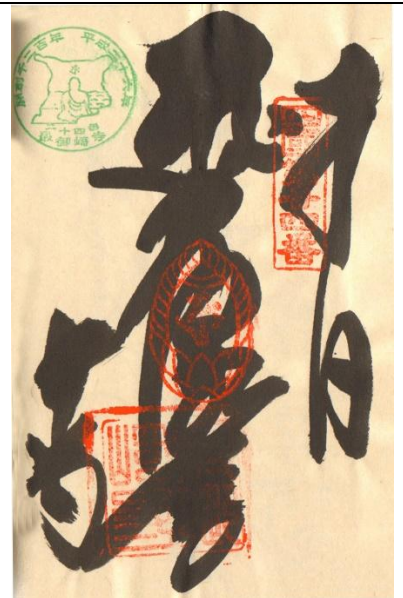
〔21〕



〔22〕



〔23〕



〔24〕



〔25〕



〔26〕



〔27〕



〔28〕



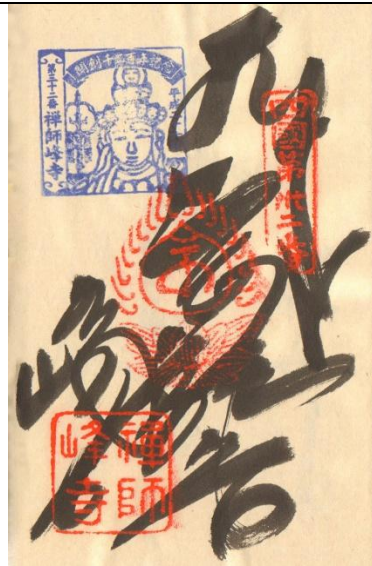
〔29〕



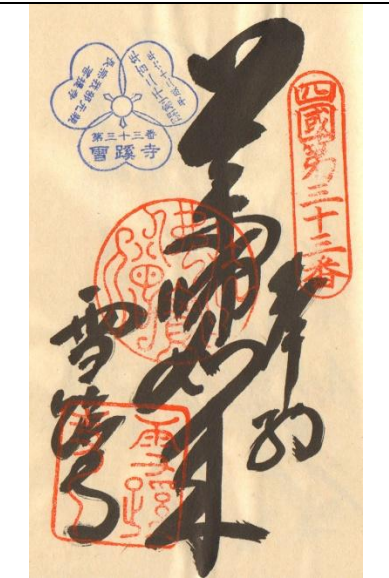
〔30〕



〔31〕



〔32〕



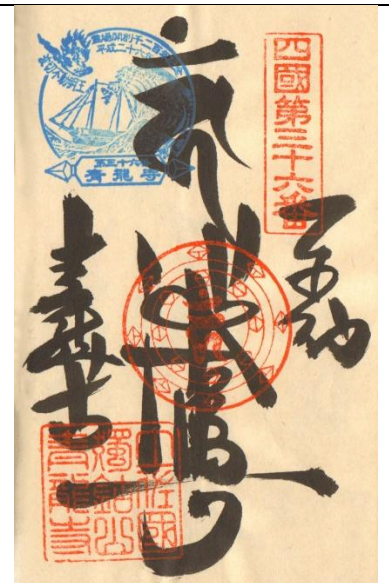
〔33〕



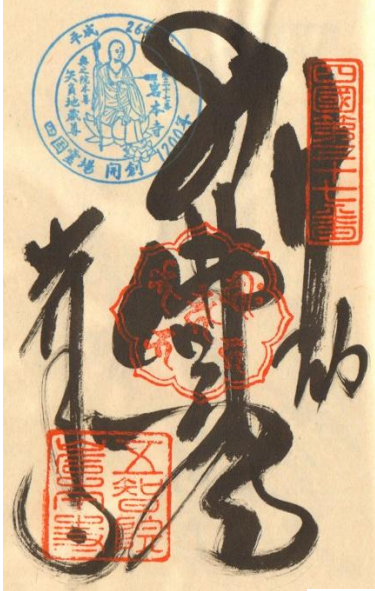
〔34〕



〔35〕



〔36〕



〔37〕



〔38〕



〔39〕



〔40〕



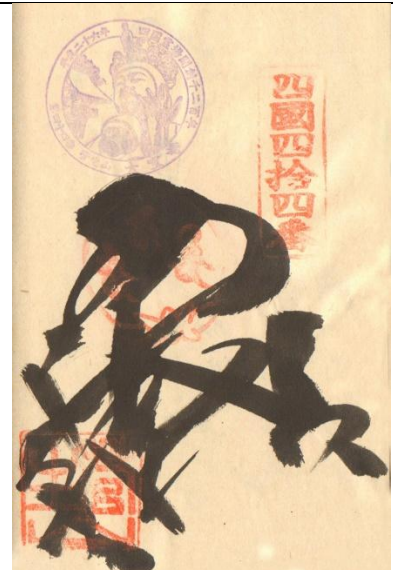
〔41〕



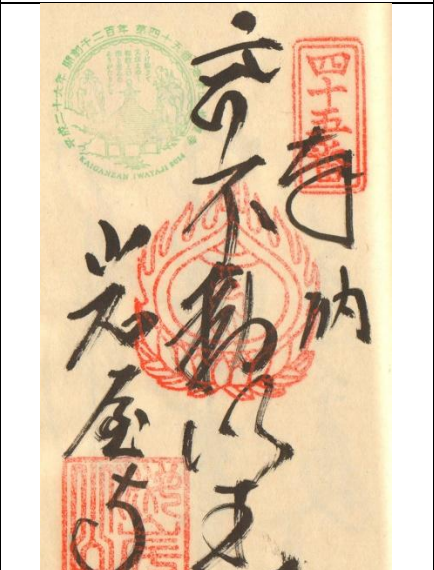
〔42〕



〔43〕



〔44〕



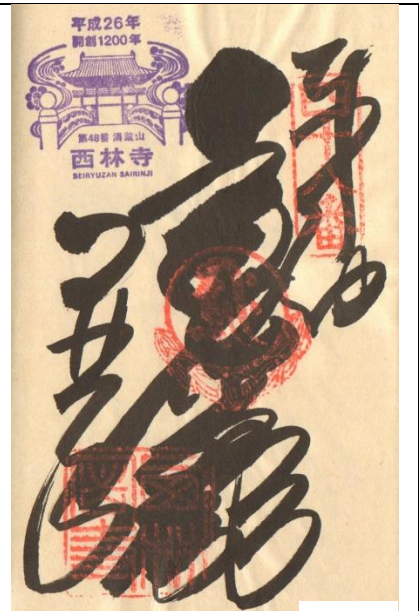
〔45〕



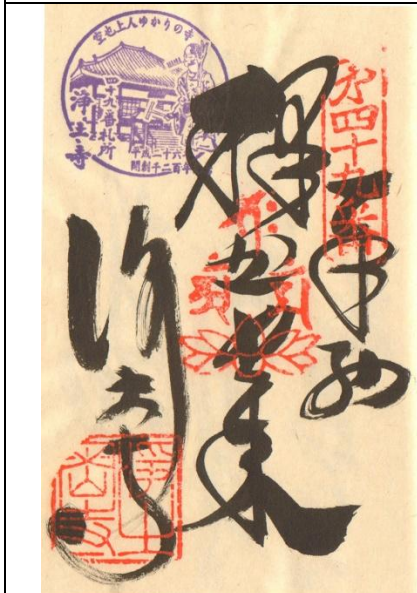
〔46〕



〔47〕



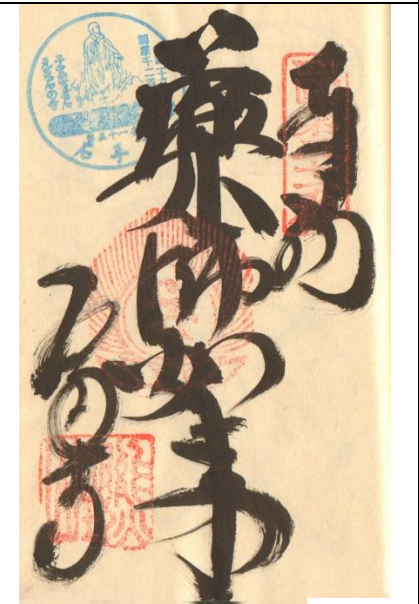
〔48〕



〔49〕



〔50〕



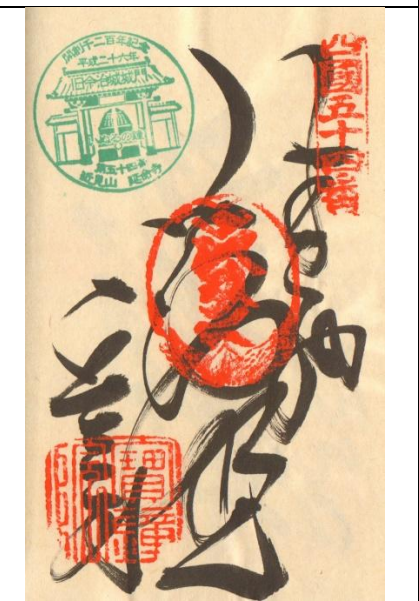
〔51〕



〔52〕



〔53〕



〔54〕



〔55〕



〔56〕



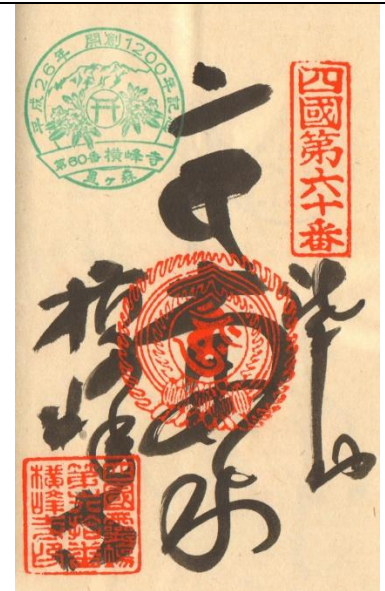
〔57〕



〔58〕



〔59〕



〔60〕



〔61〕



〔62〕



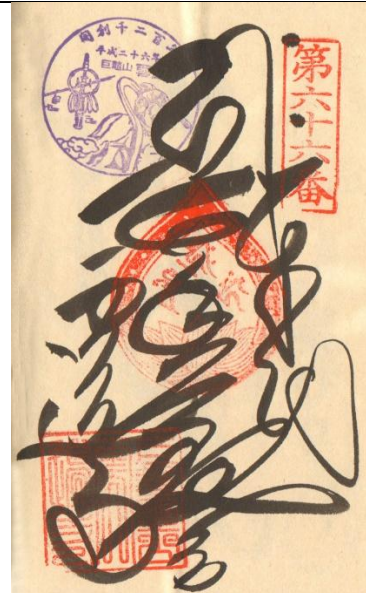
〔63〕



〔64〕



〔65〕



〔66〕



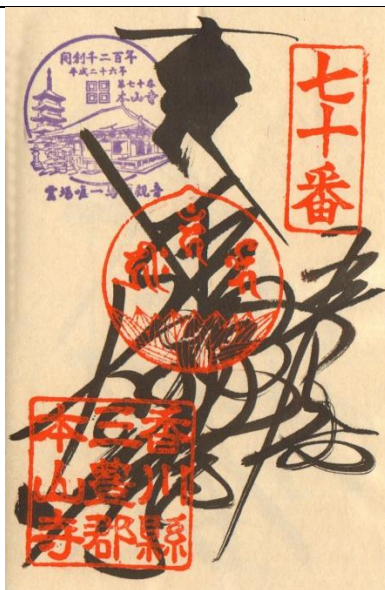
〔67〕



〔68〕



〔69〕



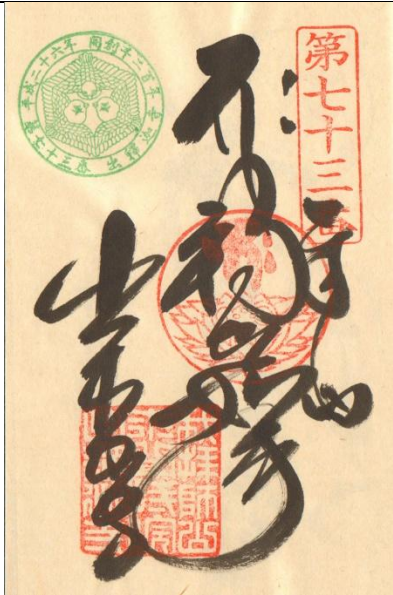
〔70〕



〔71〕



〔72〕



〔73〕



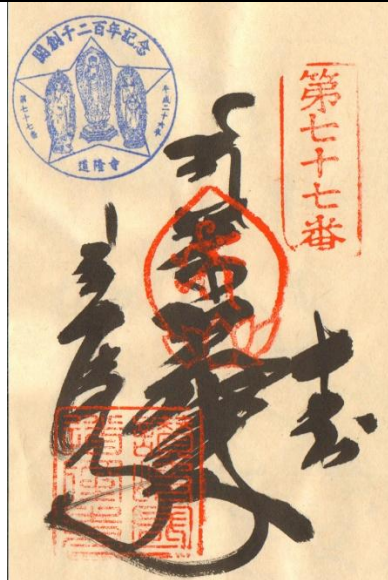
〔74〕



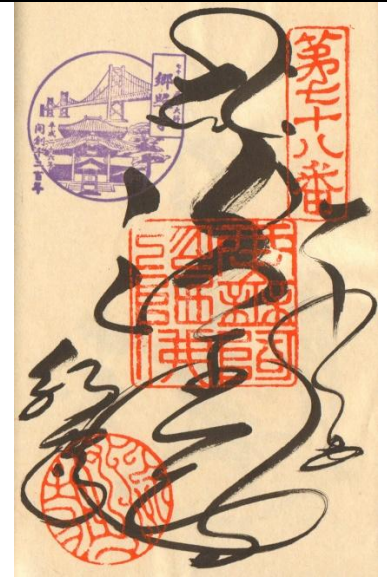
〔75〕



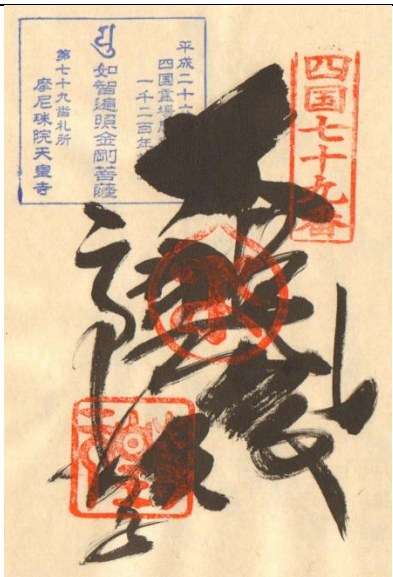
〔76〕



〔77〕



〔78〕



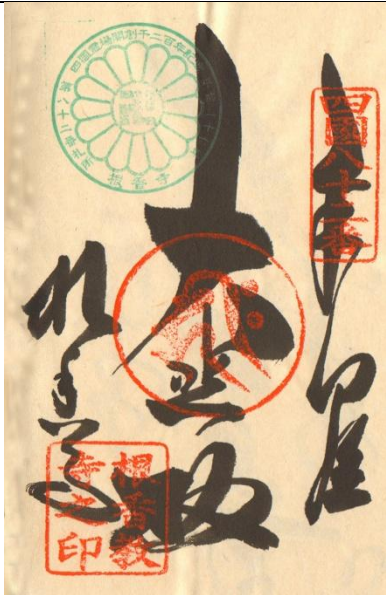
〔79〕



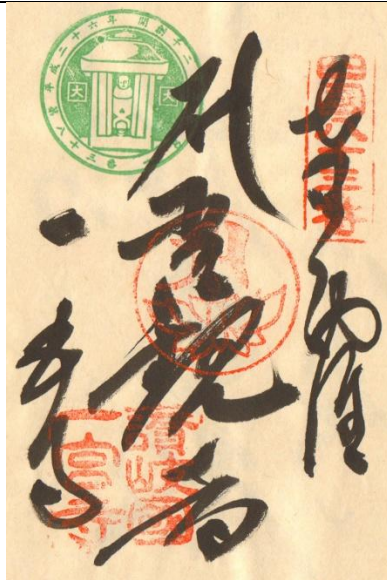
〔80〕



〔81〕



〔82〕



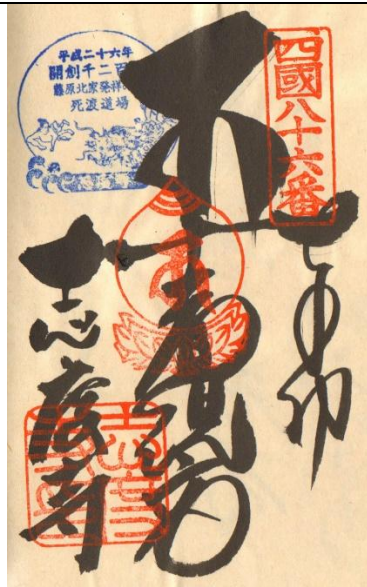
〔83〕



〔84〕



〔85〕



〔86〕



〔87〕

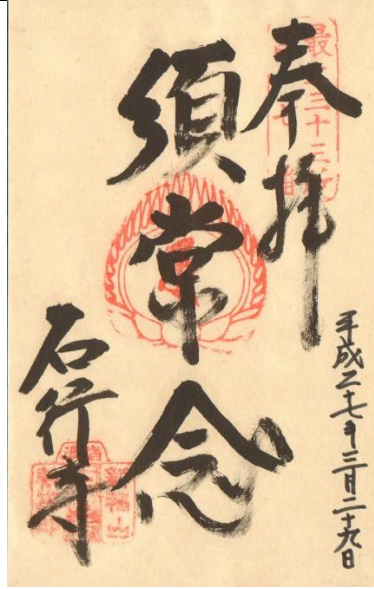


〔88〕

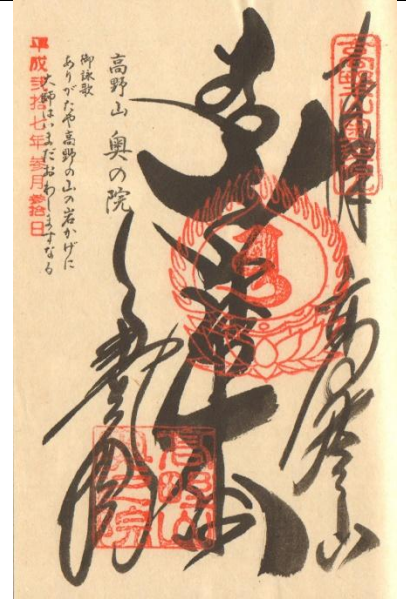
以上、本札 88 印



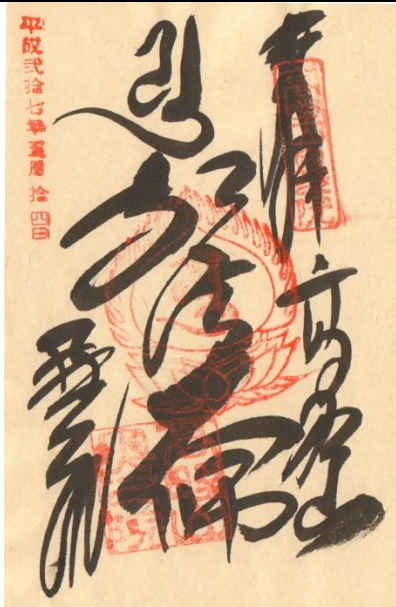
霊山寺(戻り)



石行寺 (前)



高野山(前)奥の院



高野山(後)奥の院



石行寺 (後)

以上、5印

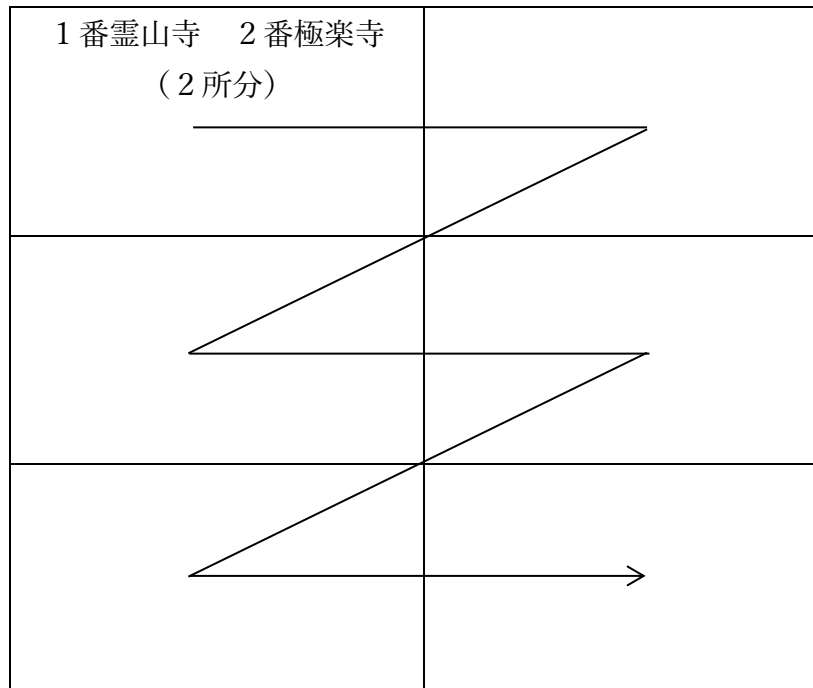
以上、合計 88+5=93 印









































2. 本札所御影^{みえい}（御姿請取）























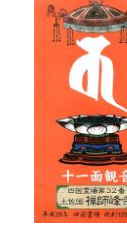

















納経に付随して入手できるものであり次頁以降のとおりです。

1 札所当たり 2 枚——「平成 26 年開創 1200 年記念」彩色御影（200 円/1 枚）と平常年対応の白黒御影（朱印に付随・無料）を頂戴しております。























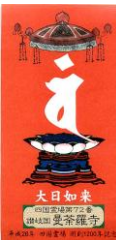

















1 つの枠内に 2 個所の札所分 4 枚を並べて、札所の配列一覧は札所の順序に従い、下図のとおりとなっています。

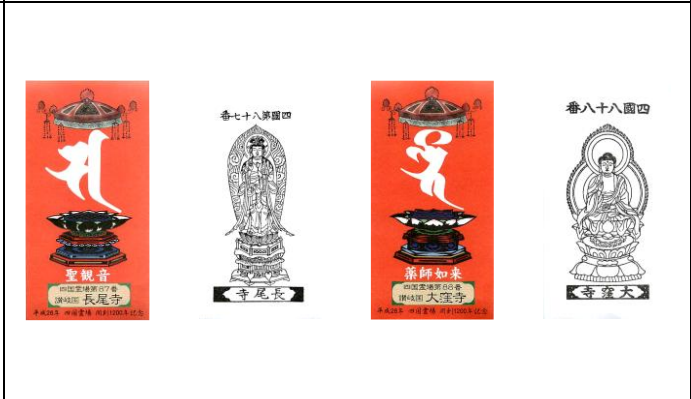
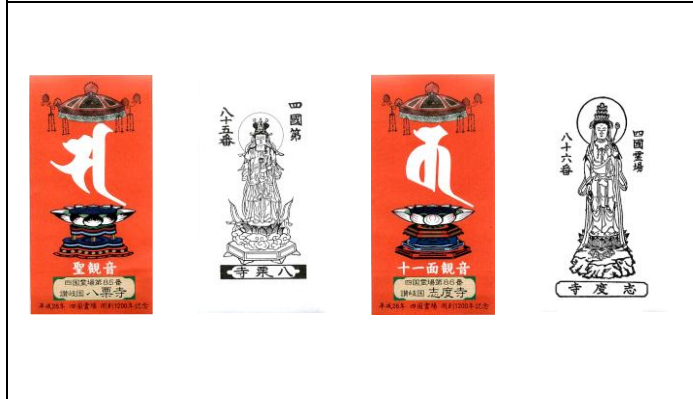
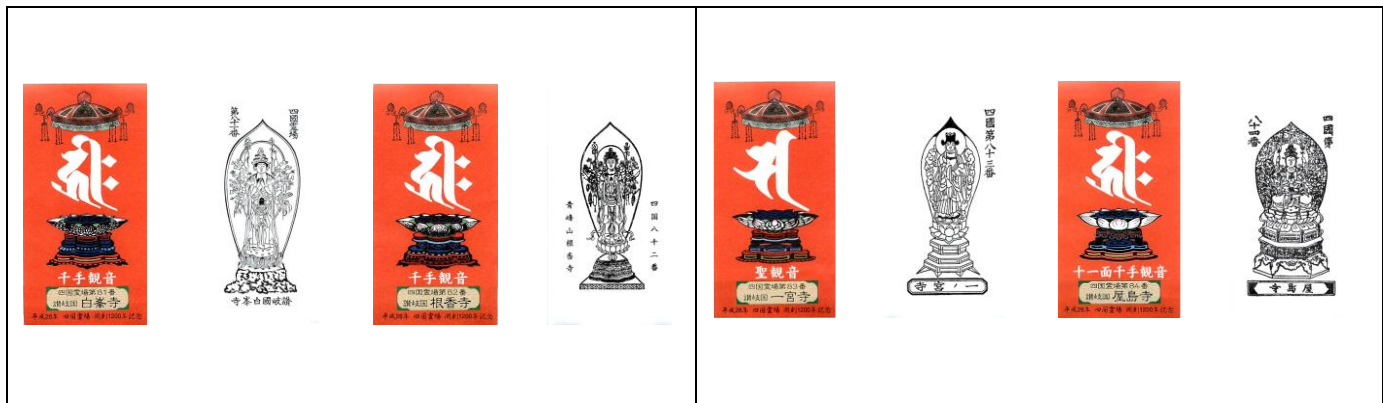


 <p>釈迦如来 中国支那第1番 阿波国 室山寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番一第園四</p>  <p>《寺山盛》</p>	 <p>阿弥如来 中国支那第2番 阿波国 極楽寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番二第園四</p>  <p>《寺樂極》</p>	 <p>釈迦如来 中国支那第3番 阿波国 金泉寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番三第園四</p>  <p>《寺泉金》</p>	 <p>大日如来 中国支那第4番 阿波国 大日寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番四第園四</p>  <p>《寺日大》</p>
 <p>地藏菩薩 中国支那第5番 阿波国 地藏寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番五第園四</p>  <p>《寺廣地》</p>	 <p>彌陀如来 中国支那第6番 阿波国 安樂寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番六第園四</p>  <p>《寺樂安》</p>	 <p>阿弥如来 中国支那第7番 阿波国 十勝寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番七第園四</p>  <p>《寺樂十》</p>	 <p>千手観音 中国支那第8番 阿波国 辨命寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番八第園四</p>  <p>《寺手千観》</p>
 <p>釈迦如来 中国支那第9番 阿波国 法輪寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番九第園四</p>  <p>《寺輪法》</p>	 <p>千手観音 中国支那第10番 阿波国 切幡寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番十第園四</p>  <p>《寺幡切》</p>	 <p>彌陀如来 中国支那第11番 阿波国 勝井寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番一十第園四</p>  <p>《寺井勝》</p>	 <p>虚空蔵菩薩 中国支那第12番 阿波国 焼山寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番二十第園四</p>  <p>《寺山焼》</p>
 <p>十一面観音 中国支那第13番 阿波国 大日寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番三十第園四</p>  <p>《寺日大音二》</p>	 <p>弥勒菩薩 中国支那第14番 阿波国 常楽寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番四十第園四</p>  <p>《寺樂常》</p>	 <p>彌陀如来 中国支那第15番 阿波国 國分寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番五拾第園四</p>  <p>《寺分國》</p>	 <p>千手観音 中国支那第16番 阿波国 観音寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番六十第園四</p>  <p>《寺音観》</p>
 <p>七佛薬師 中国支那第17番 阿波国 井戸寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番七十第園四</p>  <p>《寺戸井》</p>	 <p>薬師如来 中国支那第18番 阿波国 廻山寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番八十第園四</p>  <p>《寺山廻》</p>	 <p>延命地藏 中国支那第19番 阿波国 立上寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番九十第園四</p>  <p>《寺江立尺願延》</p>	 <p>地藏菩薩 中国支那第20番 阿波国 鶴林寺 平成23年 中国支那館 開創1500年記念</p>	<p>番廿第園四</p>  <p>《寺林鶴》</p>

 <p>虚空藏菩薩 四國霊場第23番 阿波國 大龍寺</p>	<p>番一廿第國四</p>  <p>山心寺 寺 龍太</p>	 <p>茶師如來 四國霊場第22番 阿波國 千守寺</p>	<p>番二十二第國四</p>  <p>寺等平</p>	 <p>茶師如來 四國霊場第23番 阿波國 龍王寺</p>	<p>番三廿第國四 除 厄</p>  <p>寺王龍</p>	 <p>虚空藏菩薩 四國霊場第23番 阿波國 龍王寺</p>	<p>番四廿第國四</p>  <p>寺瑞龍</p>
 <p>攝取地藏尊 四國霊場第25番 土佐國 津野寺</p>	<p>四國第二十五番</p>  <p>津野 寺</p>	 <p>茶師如來 四國霊場第25番 土佐國 宝明院寺</p>	<p>四國第二十六番</p>  <p>西 寺</p>	 <p>十一面觀音 四國霊場第25番 土佐國 神峯寺</p>	<p>四國第七霊場 土佐 神峯寺</p> 	 <p>大日如來 四國霊場第25番 土佐國 大日寺</p>	 <p>寺日大吞八妙國四</p>
 <p>千手觀音 四國霊場第25番 土佐國 國力寺</p>	<p>番九廿第國四</p>  <p>寺妙國佳土</p>	 <p>阿弥陀如來 四國霊場第25番 土佐國 善徳寺</p>	<p>番十三第國四</p>  <p>寺寂善堂一徳土</p>	 <p>文殊菩薩 四國霊場第25番 土佐國 有持寺</p>	<p>四國霊場 第三十一番</p>  <p>寺林田五</p>	 <p>十一面觀音 四國霊場第25番 土佐國 福徳院寺</p>	 <p>寺三三善國四</p>
 <p>茶師如來 四國霊場第23番 大洲國 智跡寺</p>	<p>番三十三第國四</p>  <p>山福高 寺 龍高</p>	 <p>茶師如來 四國霊場第23番 大洲國 龍指寺</p>	<p>番四廿第國四 寶</p>  <p>寺阿後徳和</p>	 <p>茶師如來 四國霊場第23番 大洲國 清龍寺</p>	<p>番五十三第國四</p>  <p>寺龍清</p>	 <p>波切不動尊 四國霊場第23番 土佐國 青龍寺</p>	<p>番六十三第國四</p>  <p>山崎國佳土 寺 龍寶</p>
 <p>茶師如來 四國霊場第23番 大洲國 龍光寺</p>		 <p>三面千手觀音 四國霊場第23番 土佐國 龍光寺</p>	<p>四國霊場 第三十八番</p> 	 <p>茶師如來 四國霊場第23番 大洲國 龍光寺</p>	<p>番九世第國四</p>  <p>寺光延和</p>	 <p>茶師如來 四國霊場第23番 大洲國 龍光寺</p>	<p>四國霊場 第四十番</p>  <p>寺法自龍和</p>

<p>十一面觀音 四國堂境第41番 伊予郡 龍光寺</p>	<p>第四十一番 四國堂境</p> <p>山階 岳 寺元龍光</p>	<p>大日如來 四國堂境第42番 伊予郡 佛木寺</p>	<p>第四十番 本尊大日如來</p> <p>寺木佛</p>	<p>千手觀音 四國堂境第43番 伊予郡 明石寺</p>	<p>第四十四番 明石</p> <p>寺石明</p>	<p>十一面觀音 四國堂境第44番 伊予郡 大賀寺</p>	<p>番四十四第國四</p> <p>山生香園櫻伊 寺夏大</p>
<p>不動明王 四國堂境第45番 伊予郡 妙鏡寺</p>	<p>番五十四第國四</p> <p>寺屋 岳</p>	<p>薬師如來 四國堂境第46番 伊予郡 淨瑠璃寺</p>	<p>第六十四番</p> <p>寺瑠璃淨</p>	<p>阿彌陀如來 四國堂境第47番 伊予郡 八坂寺</p>	<p>番七十四第國四</p> <p>寺坂八</p>	<p>十一面觀音 四國堂境第48番 伊予郡 西野寺</p>	<p>番八十四第國四</p> <p>寺林西</p>
<p>釈迦如來 四國堂境第49番 伊予郡 淨土寺</p>	<p>番九十四第國四</p> <p>寺土淨</p>	<p>薬師如來 四國堂境第50番 伊予郡 繁多寺</p>	<p>第五十番 四國堂境</p> <p>寺多繁</p>	<p>薬師如來 四國堂境第51番 伊予郡 石手寺</p>	<p>番一十五第國四</p> <p>寺手石</p>	<p>十一面觀音 四國堂境第52番 伊予郡 太山寺</p>	<p>第五十二番 四國堂境</p> <p>寺山太櫻伊</p>
<p>阿彌陀如來 四國堂境第53番 伊予郡 圓明寺</p>	<p>第五十三番 四國堂境</p> <p>寺明圓</p>	<p>不動明王 四國堂境第54番 伊予郡 延命寺</p>	<p>番四十五第國四</p> <p>寺命延</p>	<p>大通智勝佛 四國堂境第55番 伊予郡 雨光坊</p>	<p>佛勝智通大 番五十五第國四 坊光前山各別治今</p> <p>寺山雲</p>	<p>地藏菩薩 四國堂境第56番 伊予郡 泰山寺</p>	<p>番六十五第國四</p> <p>寺山雲</p>
<p>阿彌陀如來 四國堂境第57番 伊予郡 雲行寺</p>	<p>五十七番 四國堂境</p> <p>寺福榮</p>	<p>千手觀音 四國堂境第58番 伊予郡 仙遊寺</p>	<p>伊豫作禮山 四國堂境第59番</p> <p>寺遊仙</p>	<p>薬師如來 四國堂境第60番 伊予郡 國分寺</p>	<p>番九十五第國四</p> <p>寺分國</p>	<p>大日如來 四國堂境第61番 伊予郡 櫻峰寺</p>	<p>四國才六十番</p> <p>寺峰櫻櫻伊</p>

 <p>大日如来 四国霊場第1号 伊予国 香園寺</p>	 <p>番一十六第 四国 伊予国 香園寺</p>	 <p>四国霊場第1号 伊予国 香園寺</p>	 <p>伊豫国一之宮 四国第1号 寺 香 園</p>	 <p>黑沙阿天王 四国霊場第1号 伊予国 吉祥寺</p>	 <p>四国第1号 伊予国 吉祥寺</p>	 <p>阿弥陀如来 四国霊場第1号 伊予国 前神寺</p>	 <p>番四十六第 四国 寺 神 前</p>
 <p>十一面观音 四国霊場第1号 伊予国 三角寺</p>	 <p>番五十六第 四国 伊予国 三角寺</p>	 <p>千手观音 四国霊場第1号 讃岐国 宗達寺</p>	 <p>番六十六第 四国 寺 宗 達</p>	 <p>薬師如来 四国霊場第1号 讃岐国 大鳳寺</p>	 <p>四国第1号 六十七番 讃岐国 大鳳寺</p>	 <p>阿弥陀如来 四国霊場第1号 讃岐国 神蓮院</p>	 <p>四国第1号 阿弥陀如来 讃岐国 神蓮院</p>
 <p>聖観音 四国霊場第1号 讃岐国 観音寺</p>	 <p>四国霊場第1号 讃岐国 観音寺</p>	 <p>馬頭観音 四国霊場第1号 讃岐国 本山寺</p>	 <p>七十番 四国第1号 寺 山 本 格 別</p>	 <p>千手观音 四国霊場第1号 海部国 兜谷寺</p>	 <p>番一十七第 四国 寺 兜 谷</p>	 <p>大日如来 四国霊場第1号 讃岐国 龍谷寺</p>	 <p>番二十七第 四国 寺 龍 谷</p>
 <p>釈迦如来 四国霊場第1号 讃岐国 出釋迦寺</p>	 <p>第七番 四国第1号 寺 迦 釋 迦</p>	 <p>薬師如来 四国霊場第1号 讃岐国 甲山寺</p>	 <p>番四十七第 四国 寺 山 甲</p>	 <p>薬師如来 四国霊場第1号 讃岐国 善通寺</p>	 <p>四国第1号 七十五番 讃岐国 善通寺 弘法大師 形民生所 寺 通 善 山 本 格 別</p>	 <p>薬師如来 四国霊場第1号 讃岐国 金倉寺</p>	 <p>四国第1号 七十六番 讃岐国 金倉寺 寺 倉 金 山 本 格 別</p>
 <p>薬師如来 四国霊場第1号 讃岐国 天室寺</p>	 <p>番七十七第 四国 寺 隆 天</p>	 <p>阿弥陀如来 四国霊場第1号 讃岐国 郷照寺</p>	 <p>四国第1号 七十八番 寺 照 郷</p>	 <p>十一面观音 四国霊場第1号 讃岐国 天室寺</p>	 <p>四国第1号 七十九番 讃岐国 天室寺 寺 室 天</p>	 <p>千手观音 四国霊場第1号 讃岐国 園分寺</p>	 <p>四国第1号 八十番 寺 分 園 岐 讃</p>



以上は、
本札
88
所分



(左は、
1
番に
戻り)

88 所 + 1 所 (戻り) = 89 所
89 × 2 = 178 枚

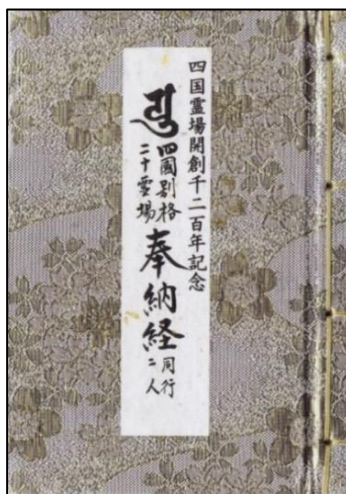
3. 別格札所納経帳（御朱印請取）

別格二十所から納経の上で頂戴した御朱印 20 印と関連して参拝した社寺分 6 印の計 26 印については次頁以降のとおりです。

御朱印一覧は、順礼した札所の順序のとおりで、下図のように配列しています。

1 番 ^{だいせん} 大山寺		

この 1 回目へんろで持参した別格札所対応の納経帳の表紙は下図のとおりです。



大正其 理徳寺
大山寺

四國別格三番靈場
大正其

百六十六番

〔1〕

大正開所 徳心寺
喜學寺

四國別格三番靈場
大正開所

百六十六番

〔2〕

次辨文 直社の靈堂
慈眼寺

四國別格三番靈場
次辨文

百六十六番

〔3〕

景林 法八 寺
辨能 尼新 靈場
鮎大師 本坊

四國別格三番靈場
景林

百六十六番

〔4〕

二ノ大 通達
大善寺 羅高 堂

四國別格三番靈場
二ノ大

百六十六番

〔5〕

四國別格三番の寺
龍光院

四國別格三番靈場
龍光院

百六十六番

〔6〕

大正開所 徳心寺
金山 石寺

四國別格三番靈場
大正開所

百六十六番

〔7〕

本坊 大師 御 法 所
十夜 十 格 大師 堂

四國別格三番靈場
本坊

百六十六番

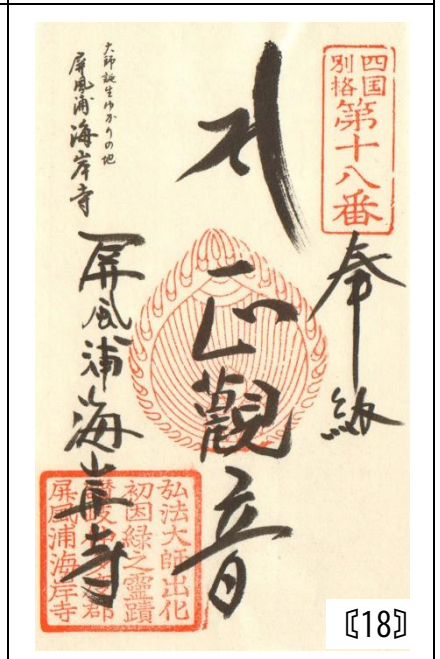
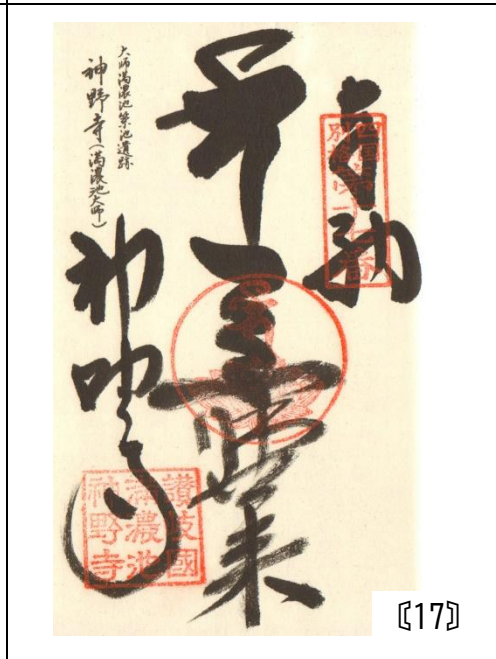
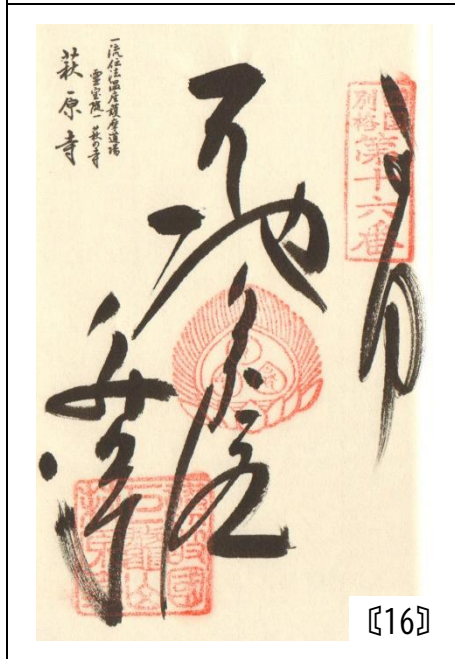
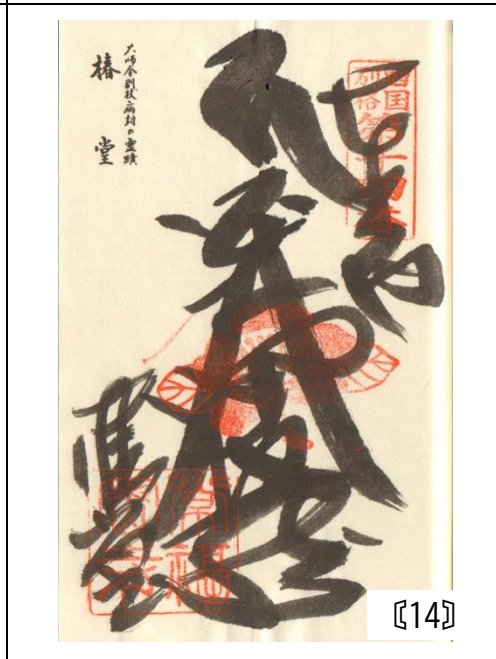
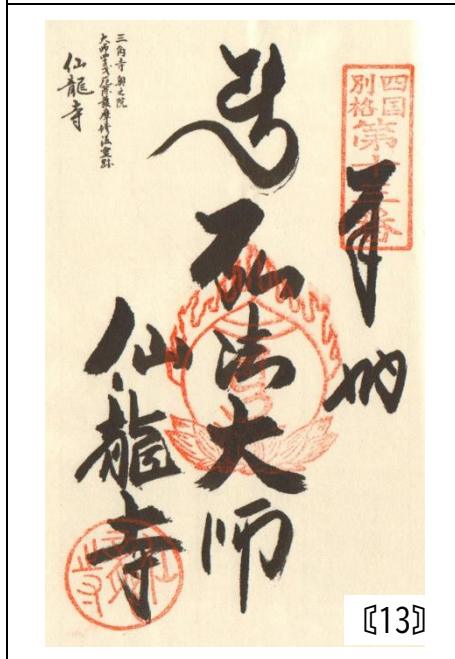
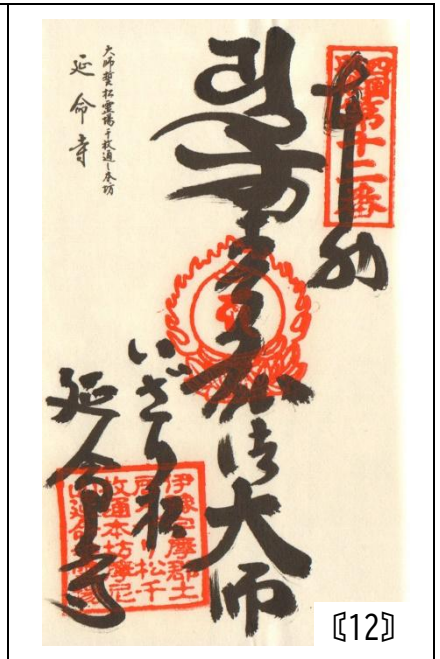
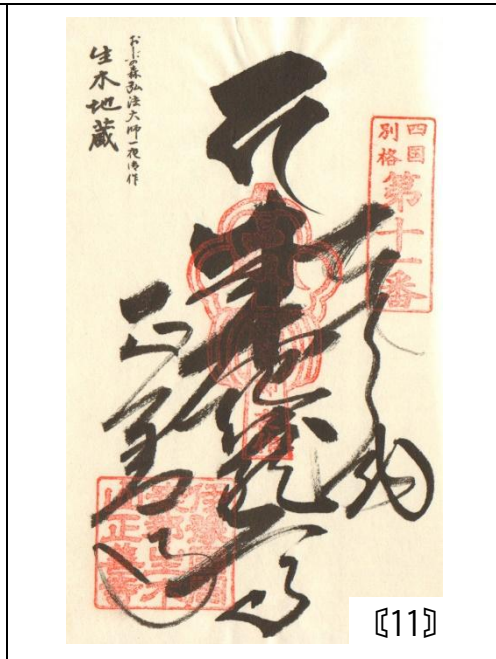
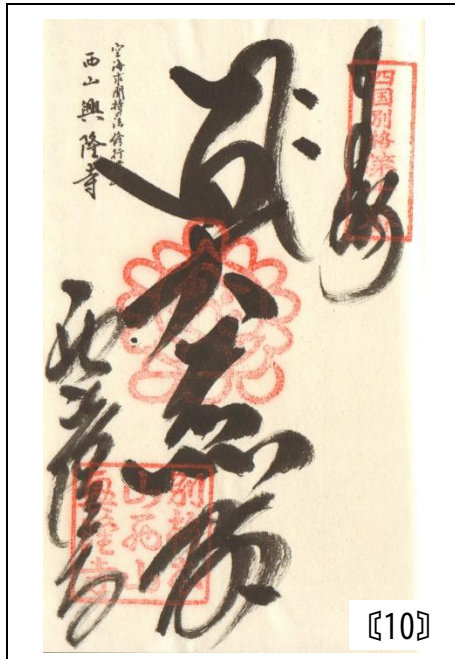
〔8〕

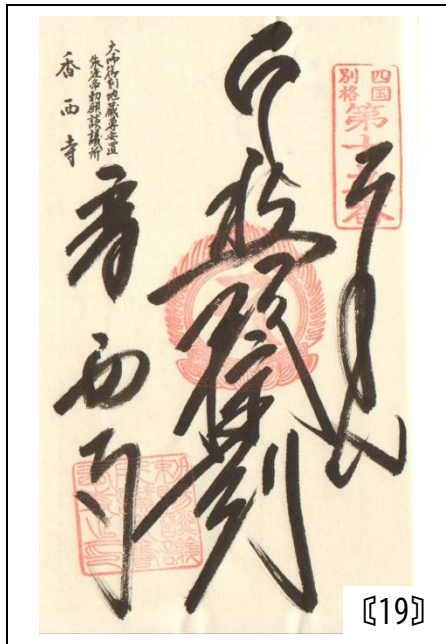
通達 開 唐 門 師 建 設
文珠院 徳 靈 寺

四國別格三番靈場
通達

百六十六番

〔9〕



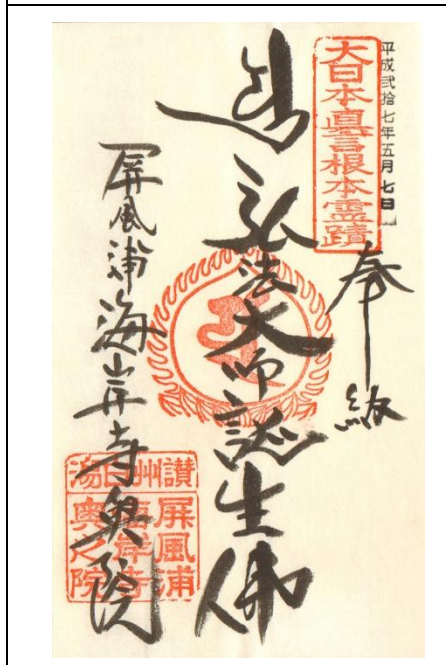


〔19〕

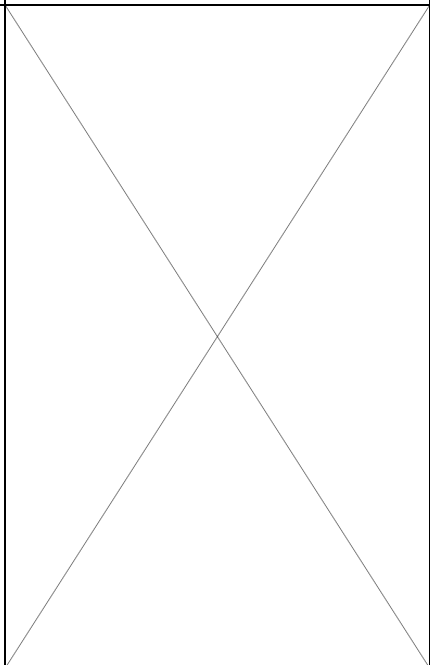


〔20〕

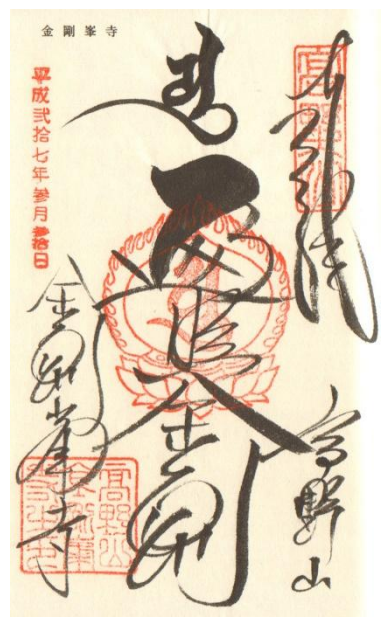
以上、別格札所 20 印



左記は別格 18 番海岸寺の奥の院分



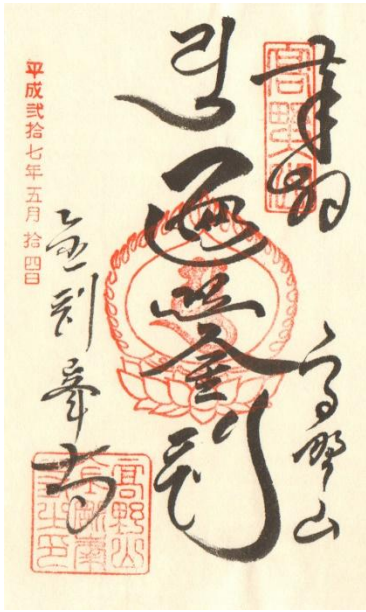
地元の月山神社 (前)



金剛峯寺 (前)



金刀比羅宮



金剛峯寺（後）



地元の^{がっさん}月山神社（後）

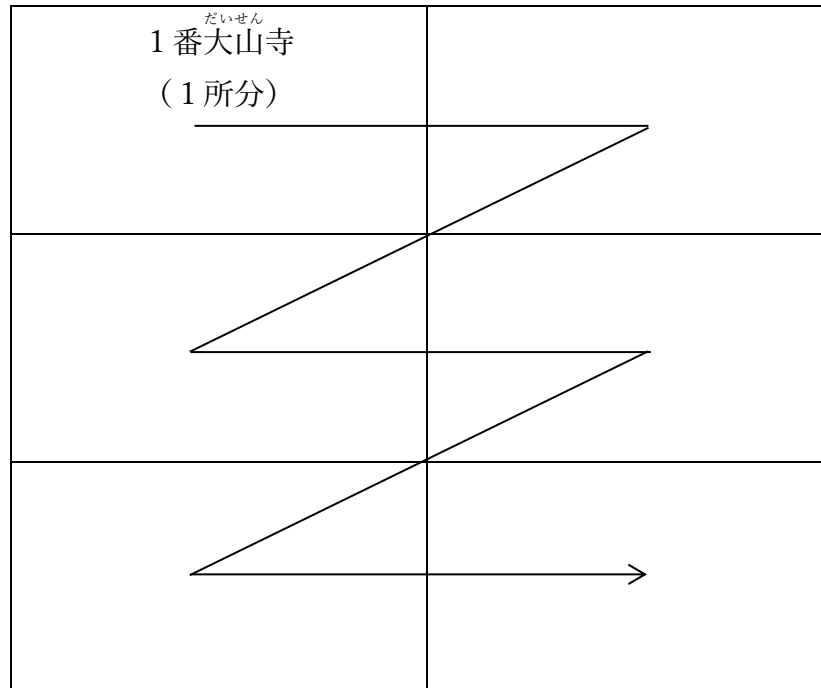
以上、合計 26 印

4. 別格札所御影^{みえい}（御姿請取）

次頁以降のとおりです。

1 札所当たり 3 枚——「平成 26 年開創 1200 年記念」彩色御影と平常年対応の白黒御影と彩色蓮型カードを頂戴しております。（朱印に付随で無料）

1 つの枠内に 1 個所当りの札所分 3 枚を並べて、配列一覧は札所の順序に従い、下図のとおりとなっています。





千手観世音菩薩

大山寺

阿洲北嶺
四国別格一番



大山寺



大山寺



薬師如来

童寺



童寺



童寺



十一面観世音菩薩

慈眼寺



慈眼寺



慈眼寺



弘法大師

精大師本坊



精大師本坊



精大師本坊



弘法大師

大善寺



大善寺



大善寺



十一面観世音菩薩

龍光院



龍光院



龍光院



千手観世音菩薩

出石寺



出石寺



出石寺



弥勒菩薩

十夜ノ橋永徳寺



十夜ノ橋永徳寺



十夜ノ橋永徳寺



因縁浄化地藏菩薩

文殊院

別格第九番



文殊院



文殊院



千手観世音菩薩

西山興隆寺



西山興隆寺



西山興隆寺



(end)

【 補 完 的 資 料 】

1. 私が、四国 108 か寺霊場の歩きへんろに掻き立てられたそもその動機

(1) 一つ目

吾が地元（居住地の近くの滝山地区）にも写し霊場が何か所か設定されている。中でも、明治 44 年 8 月 20 日に設定された「堀田村・滝山村に設定した弘法大師八十八ヶ所（写し）霊場」の中の五つが、私の住む町内会（上桜田地区持ち家約 300 世帯）のお宅に比定されていることを知った。その 5 軒とも、**図 H-1** のとおりの立派な弘法大師像（大きさは幅 30 cm 前後×高さ 40 cm 前後×奥行 15cm 前後）を大事に祀っており、拜ませて貰った。このことを周囲の人達は殆ど知らない状況の中で、連綿と信仰心を繋いで来たことに感銘を受け、お大師信仰とは何ぞや、という思いが強まった。

「^{ひそ}密やかに弘法様をお守りし お宿の勤め熱き心ぞ」

なお、この他に、吾が地元は平清水地区の平泉寺大日堂裏手にも、四国八十八か所の写し霊場がある。

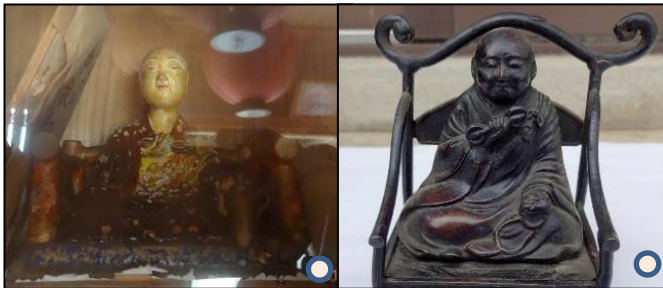


図 H-1

(2) 二つ目

自宅から北東へ 1.25 km ほどの所の平清水地区に**図 H-2** のとおりの石碑が建立されている。

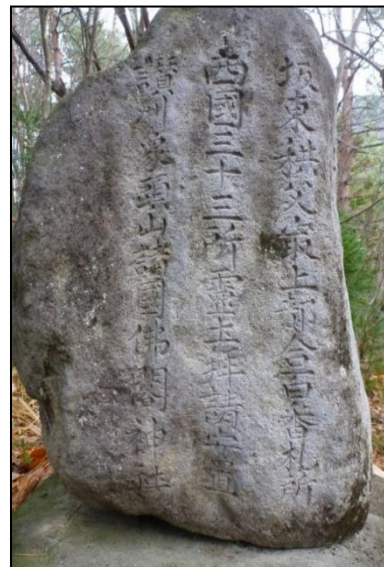


図 H-2

この刻字は向かって、右側に「坂東秩父最上都合百番札所」、中に「^{さいごく}西国三十三所霊土^{さいごく}拜請安置」、左側に「讚州象頭山諸国佛閣神社」と書かれてある。この中で『^{さいごく}霊土拜請安置』（現地の土を持って来てここに埋めた、ということ）、ならびに『^{讃岐国（香川県）}讚州象頭山諸国佛閣神社』——吾が地元にも、「象頭山」（=金毘羅山）と刻字された石碑がある。——がとても気になっていた。

(3) 三つ目

定年退職翌年の 2010 年（平成 22/61 歳）～2014 年（平成 26 年/65 歳）までの 5 年間で、歴史街道・歴史古道のスルーハイクを行い、総件数 14 件、歩行述べ日数は正味 221 日間、総歩行距離 6,952（約 7,000）km を踏査して来た。一区切りが付いたという思いになったことからそれまでとは少し違ったスルーハイク歩き旅を探していた。

(4) 四つ目

「旧羽州街道スルーハイク」——正味 2014(平成 26)年 9 月 14 日(日) 福島県桑折^{こおり}スタート～9 月 30 日(火) 青森県油川ゴールまでを 16 連泊 17 日間、実歩行距離 557 km を連続連日歩行——において、12 日目の 9 月 25 日(木) の早朝、秋田県三種町(八郎潟東北部) の児玉商店に立ち寄った。その時、ご夫妻から四国 88 か寺霊場参拝の結願達成証書を見せて貰ったが、こういうものを受領出来るのかと初めて知った。そのことをご夫婦で話す時の笑顔と輝く表情(図 H-3) がとても印象に残り、無性に「私もやりたい!」と強い気持ちになった。この後の 5 年間のスルーハイクをあれやこれや思案・計画する中でこれが刺激となって、決定的な要因となって四国遍路が優先順位第 1 位に躍り出たということ。



図 H-3

.....

以上の 4 つの思いが重なって、それでは、四国 108 か寺(本札 88 所+別格 20 所) 霊場の通しの歩きへんろを行いたい、については各寺の本尊を奉る本堂前の霊土を集めて来ることしようとの願望が強まり敢行に火が付けられたものである。

そして、この本書のと通りの結果となった。

ここでふと、図 H-4 の相関ネットワーク構図(四つ葉のクローバーに見立て) が浮かんだ。それぞれは別物であるが、見えない糸で繋がれた有機的な結合の何ものかに想像が膨らんだ。その結合の中心に、求心力を^{つかさど}司った「心(神)御柱」が存在しているように思えてならないが、それは、天照大御神か、大日如来なのか、欲深くその二つの合体なのか。それは、現実の私にとっては何を意味するのか ! ?

2. 遍路受難の時代

遍路側の問題や周りの環境の斉で、四国遍路にとって、いわゆる受難の時代があった事から、私の経験外ではあるが、四国遍路の民衆史(山本和加子著/新人物往来社)を参考に以下の 2 点を記述する。結局は、遍路する側の常軌を逸した人間の^{きら}問題が嫌われる事になる。現在の遍路についても、インターネットへの書き込みを見ると、マナーに欠ける遍路の横行が問題視されている。社会常識さえ弁えていれば済む事ではあるが、私は『旅の恥はかき捨て』は絶対に御法度と肝に銘じて臨んで来た。

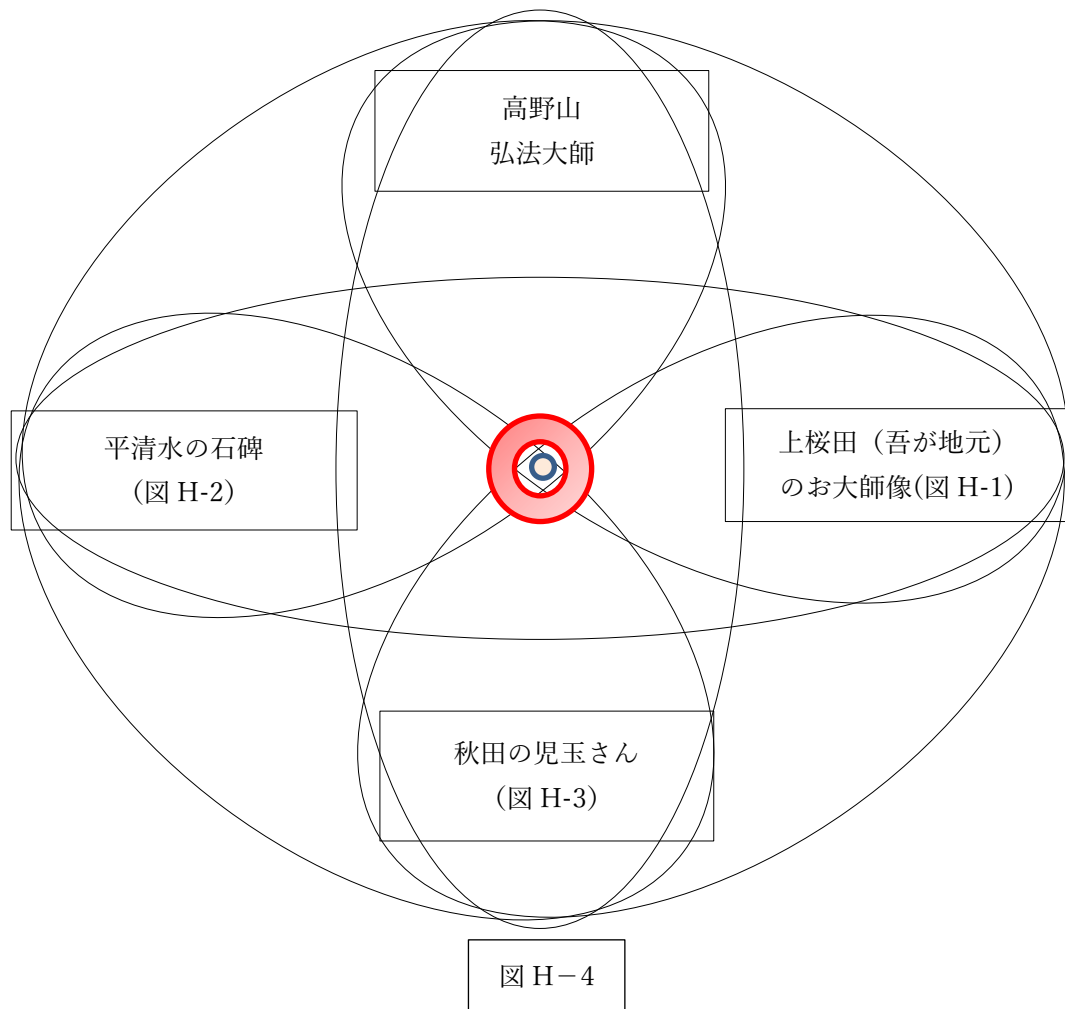


図 H-4

①遍路側の問題、倫理の欠如（江戸時代）

信仰心がまったく無く、遍路を生活や遊興の手段とする遍路を乞食遍路、迷惑遍路、職業遍路、偽遍路などと呼ばれた遍路が横行した事があった。つまり、人を悪事に誘い、夜は仲間同士の博打、女を誑かし、深酒に耽り、純真な女を騙して一時の夫婦になり、空き巣を働き、戸をこじ開けてまでの強盗に入り、喧嘩を噴きかけるなど、——今でいうモラルハザードに陥った時代があった。

②廃仏毀釈（明治時代）

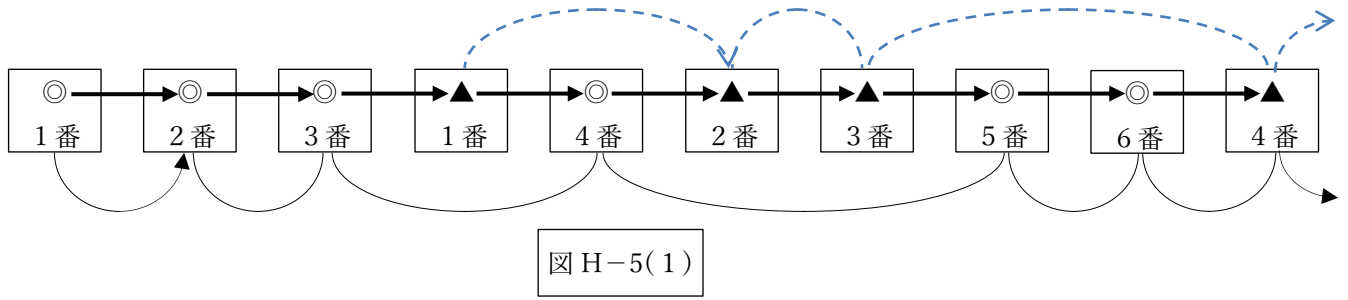
明治新政府は、明治元(1868)年、神仏混淆を禁止し、寺院と神社を分離するように命じる神仏判然令を出したが、誤解もあり廃仏毀釈として広がった。その勢いに乗じて遍路拒絶の取り締まりや弾圧が行われた。つまり、宗教上の明白な理由というよりも、前記不届きものの悪行・乱行を追い払うためにこの判然令を都合よく利用したとって良いのかもしれない。

3. 順番どおりの参拝とは

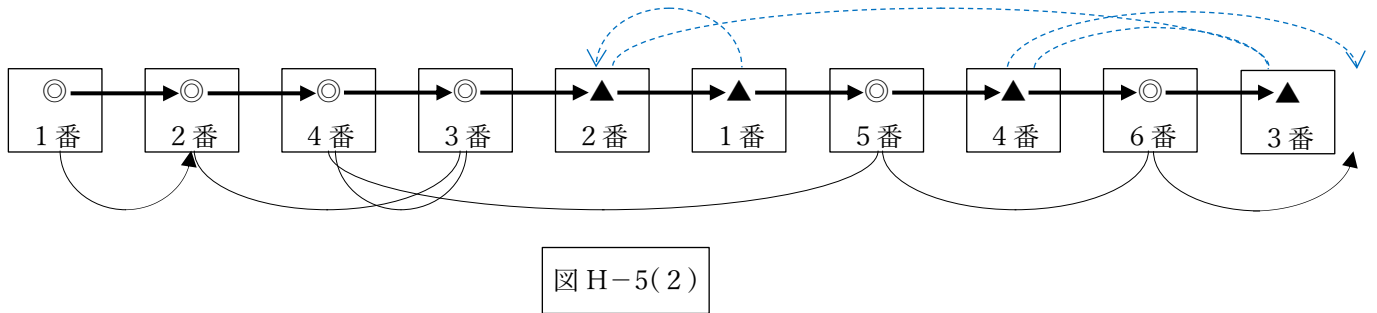
本書前記 11 頁に「c. 本札 88 所に別格 20 所を差込みながら、1 番霊山寺から本札・別格共に順番通りに参拝した。」と既述したことについての補足である。

(◎印は本札寺院、▲は別格札所寺院を表す。前後の関係は現状とは異なります。)

その意味合いは、図 H-5(1) イメージ図のとおり。



一般的には、宿泊先の場所、距離、立ち寄り先などの自己都合により、順番無視で図 H-5(2) イメージ図のとおりで札打ちをする。



4. 私が携行・記録したGPS軌跡の拡大例示

図 H-6 の赤色実線は、金刀比羅宮からの山越え足跡（トラックログ）です、首に下げた同機器は私が動いたとおりに「時刻と緯度経度」を電子的に打点・記録する。これをパソコンにダウンロードし、全区間、全日分を保持・保存している。同図のトラックログはその電子記録を可視化した結果ということ。



5. 吾が地元の金毘羅石碑

(1) 自宅周辺

図 H-7(1) は私の自宅から直線距離 300m の所、図 H-7(2) は 350m の所にある「金毘羅大権現、金毘羅山」と刻字されている石碑である。

(2) 山形駅前通り

図 H-8 は私の自宅から直線距離 2,650m の所、諏訪神社境内にある「象頭山」の石碑である。

図 H-7(1)



図 H-7(2)



図 H-8

6. 遍路道沿いの新旧の様々な道標・案内表示；^{みちしるべ} 図H-9

統一感なしの種々雑多なもの。様々な団体や個人が設置しているとのこと。



図 H-9

7. 節目での私の姿 (写真) ; 図 H-10



2015(H27)年4月1日(水)
本札1番霊山寺開幕スタート



2015(H27)年5月12日(火)
別格20番大瀧寺、満願



2015(H27)年5月12日(火)
本札88番大瀧寺、結願



2015(H27)年5月13日(水)
本札1番霊山寺閉幕ゴール(円環成就)

図 H-10

8. 時々のスナップ写真（全3,150枚中の一部）； 図H-11～図H-13



上下；お接待所の皆さん



図 H-11



図 H-12



於遍路小屋（休憩所）、みんな歩き遍路達



たまたまここで一緒になったA・Bさん、ズタ袋が重そう

図 H-13

撮影した写真の全数は 3,150 枚であったが、本書を仕上げた直後にハードディスク交換時の操作ミスによりほとんどが消失してしまいました、これが残念です。

(end)

【 終わりに 】

初めての四国へんろを振り返って、歴史街道スルーハイクとの相違点は、端的には次のとおりです。60歳代前半の歴史街道スルーハイクにおける1回当りの最長期間は正味29連泊30日間でしたが、今回は43日間で長かったなあという感じでした。歴史街道スルーハイクでも多くの社寺に立ち寄ったが、御朱印は一つも貰っておりませんでした。一方、四国へんろは、必ず御朱印を貰う事が目標の一つであると言ってもいい。それも御朱印の納経時間が7時～17時までに限定されております。(もちろん、札所間の距離はまちまちであります。)また、札所(寺院)には読経等を含め平均30分(0.5時間)近く滞在して来ました。このような制約があったという事が大きな違いであります。宿の予約の仕方と合わせて、へんろの方がよりストレスを感じました。だからと言って、精神的に萎えた訳でも無く、むしろ一つの刺激となって意欲の活力源にもなりました。また、それらのストレスよりも有り余るほどの有意義なことが沢山ありました。

.....

私は歩く時は、下表のとおり、「蟻・亀・蝶」之助の気分(人間)になります。「天地人」の三位一体感を秘めて歩いています。三つのいずれもまったく目立ちません、「162cmの丈、山椒さんしょは小粒で(も)ぴりりと辛い」と自画自賛で歩いて来ました。

		探究心				
3 冒険心	蟻	目立たぬ蟻の底力「千丈の堤も蟻の一穴より」という諺がある。一步一步に意味を込めて進めば、必ずや難関においてはブレークスルーとなる。	地(□)	人(私) [□◇○]	2 好奇心	
	亀	のろまの亀は、油断の兎に勝つことがある。諦めずただひたすら前進、その先には必ずや勝機が開ける。				
	蝶	蜜を吸収したく、相手を選ばずどこまでも飛んで行く。鳥瞰視野を持ち、稀有な人がいれば、私淑を請うべくどこにでも馳 <small>は</small> せ参じる。	天(○)			

改めて、初めての四国へんろを振り返って、毎日が「歩くが仕事」です、只々無我夢中で無心・一心で歩いて来ました。我慢我慢、辛抱辛抱、忍耐忍耐———そのような時の流れが一番印象に残っています。よくぞ、この力はどこから生まれて来るのだろうとつくづく思いましたが、「蟻・亀・蝶」之助の三位一体が潜んでいるのだと実感した次第でした。

.....

皆に衷心より感謝いたします。宿のご主人・女将さんから、同宿の方々から、地元・地域の方々から、行きずりのお遍路さんの方々から、納経所の方々から、多くの関係者から多大なお接待の心を頂

戴しました。心より感謝申し上げます。

住まいの地元ではどうしても腐れ縁、しがらみで^{きげん}機嫌を窺いながらの打算的な付き合いです、かえってストレスが溜まります。相手の一言が心に刺さって引き摺るものです、お互い様ですが。

しかし、地元の娑婆を離れて遠くの初めての土地に赴くと全てが新鮮です。景色だけではなく、一期一会の人との出会いです、多様な価値観を持った人達、ユニークで様々な思いを持った人達の情熱と根性に沢山学びました。すばらしい四国遍路の文化に接し、沢山の人達との出会い・交流があって、とても学びの多い歩きへんろとなりました。全ての巡り合わせに感謝・感激で一杯です。

.....

108 か寺札所の番号と寺院の名称が一致しません。また、境内を鮮明に記憶している所は数えるほどしかありません。しかし、四国へんろの 108 か寺霊場は、神秘性を帯びた奥行き深い不思議な魅力がある事を感じました、また、行って見たいと思うが、その理由を確固たる明確な言葉で表されない、しかし、また、行って見たいのです。

今後、機会があれば、四国へんろの逆打ち（反時計回り）、順打ち（時計回り）の 2 回はやって見たいものだと思うようになっていきます。

以上のそのような感情は「お四国病」——確たる理屈はないが、ただ行ってみたい、ただ 108 か寺霊場をお参りしたいとする望洋とした気分——というそうです。

そして、日本に限っても多くの歴史街道、巡礼古道があり、もっともっと挑戦して見たい、と、次への大きな夢があるという事に気付きました。その先の夢の夢、としては、西国三十三所^{さいごく}観音霊場を歩き通したいものです。

.....

様々な苦難に立ち向かって奮闘している人達が世の中には大勢いるという事を思えば、前記歩きへんろを^{かんぼ}貫（完）歩したからと言って、特別に高揚した感情になりません。また、私の心の改造に何か特別に資するものを得たという感情もありません。充足感はなく、心模様はまだまだ中途半端だなあと感じています。分子生物学者の村上和雄さんがおっしゃられる「サムシング・グレート」（確たる理由がある訳ではなく、ただ何か偉大なるもの）を感知出来た楽しい楽しい歩き旅、沢山の貴重な経験をさせて貰った四国へんろでありました。

(完)

2015 (平成 27) 年 12 月 31 日 (木)

山形県山形市上桜田

☎ 080-3338-3738

✉ dreamyok@hotmail.co.jp

